

京都府の横穴墓 —横穴墓に葬られた人々—

【報告 1】 丹後地域における横穴墓群の様相

京丹後市教育委員会文化財保護課

岡林 峰夫 係長 P 1 ~ P 9

【報告 2】 南山城地域の横穴墓群

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

加藤 雅士 主任 P 10 ~ P 16

【講演】 群集墳としての横穴墓群

京都橋大学

一瀬 和夫 教授 P 17 ~ P 27

【ミニ討論会】

進行

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

高野 陽子 主査

日時：平成 30 年 6 月 16 日（土） 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

場所：京丹後市大宮町 アグリセンター大宮 2 階 多目的ホール

主催：京都府教育委員会

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

共催：京丹後市教育委員会



丹後地域における横穴墓群の様相

京丹後市教育委員会文化財保護課

岡林 峰夫 係長

1 はじめに

丹後地域では、古墳時代後期後半、横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}を採用した首長墓が減少し、墳丘をもつ古墳の築造が終焉を迎えるころに横穴墓^{おうけつぼ(よこあなぼ)}の築造が見られます。横穴墓は、古墳時代後期以後も築造され、奈良時代にかけて築造されています。今回、横穴墓の様相を概観することにより、古墳時代から古代にかけての丹後地域の一端をひも解いてみたいと思います。

2 丹後地域の横穴墓の調査事例

これまでに行われた横穴墓の発掘調査の主なものを概観します。

(1) 大田鼻横穴群^{おおたがはな}

大宮町周^す積、竹野川右岸に位置する、南面する丘陵斜面に築かれた6支群、30基で構成される横穴墓群です。6世紀末～7世紀初頭及び8世紀中頃にかけて築造されたものです。群構成に着目すると、1～9号横穴墓、10～19号横穴墓、20～27号横穴墓はそれぞれ群として把握できる一方、28・29・30号横穴墓はそれぞれ単独の横穴墓として把握できる状況です。

特に28号横穴墓は周辺30m以内に他の横穴墓はなく、特別な存在であったことを想像させます。28号横穴墓の平面形は長方形の前庭部に奥へ広がる台形の玄室^{げんしつ}を備えた「B型」として分類されるものです。出土遺物の中に「厨物^{くりやもの}」と墨書された土師器高杯2点、「厨^{くりや}」「厨人^{くりやひと}」と墨書された土師器蓋1点が出土していることが特筆されます。

(2) 有明横穴群^{ありあけ}

大宮町三坂、三坂神社墳墓群に近接した9基で構成される横穴群です。うち8基が調査され、7世紀中葉から8世紀前半にかけ築造されたものと考えられています。5号横穴墓の玄室内からは「奉」と焼成後に線刻された須恵器杯・杯蓋^{せんこく すえき}が4点出土しています。

(3) 左坂横穴群^{ささか}・里ヶ谷横穴群^{さとがだに}

左坂横穴群・里ヶ谷横穴群は、左坂古墳群の営まれた丘陵の南斜面に築かれた7世紀から8世紀前半にかけて造営された横穴墓群です。左坂A支群で6基、B支群で13基と火葬

墓1基、里ヶ谷横穴群で5基が調査されています。

左坂A5号横穴墓では、人骨の遺存状況が良好であり、9体以上確認されました。内訳は成人7体、小児2体で、どの遺体も2次的移動を受けている状態で、埋葬後片付けられていると考えられます。

左坂B11号横穴墓(8世紀前半築造)では墓室面積が1㎡に満たないほど小型のものが出現します。B6号横穴墓からは焼骨が出土していることから、火葬骨を埋葬するようになったため小型化した可能性が指摘されています。

出土遺物は、土師器・須恵器・鉄鏃・刀子などの鉄製品、金環など金属製品が出土しています。

3 丹後地域の横穴墓の特徴と変遷

丹後地域の横穴墓の特徴を挙げると、まず分布域が限られている点が挙げられます。丹後地域では、竹野川上流域、鱒留川流域、野田川上流域にその中心があります。一方、丹後半島における横穴式石室の分布域は竹野川下流域、川上谷川流域に中心があり、横穴式石室の分布域と重ならない特徴があります。しかし、横穴墓から出土する遺物の構成は、須恵器・土師器等の土器類の他、鉄鏃・刀子などの鉄製品、金環・玉類などの装飾品であり、当該期の横穴式石室に副葬されるものと大きく違いはありません。

平面形態では、時期による変遷が見られることが判明しています。当初は長方形の墓室で片袖・両袖形のものがあるなど、横穴式石室の形態を模倣していますが、横穴式石室の造営が終焉を迎える7世紀後半ごろから平面三角形のフラスコ型のものがみられ、同時に前庭部が「コ」字型に広がるタイプが盛行します。数量的にはこの時期のものが最も多くみられます。そしてフラスコ型のうち墓室面積が極端に小さいタイプが出現し、8世紀中頃には終焉を迎えることとなります。

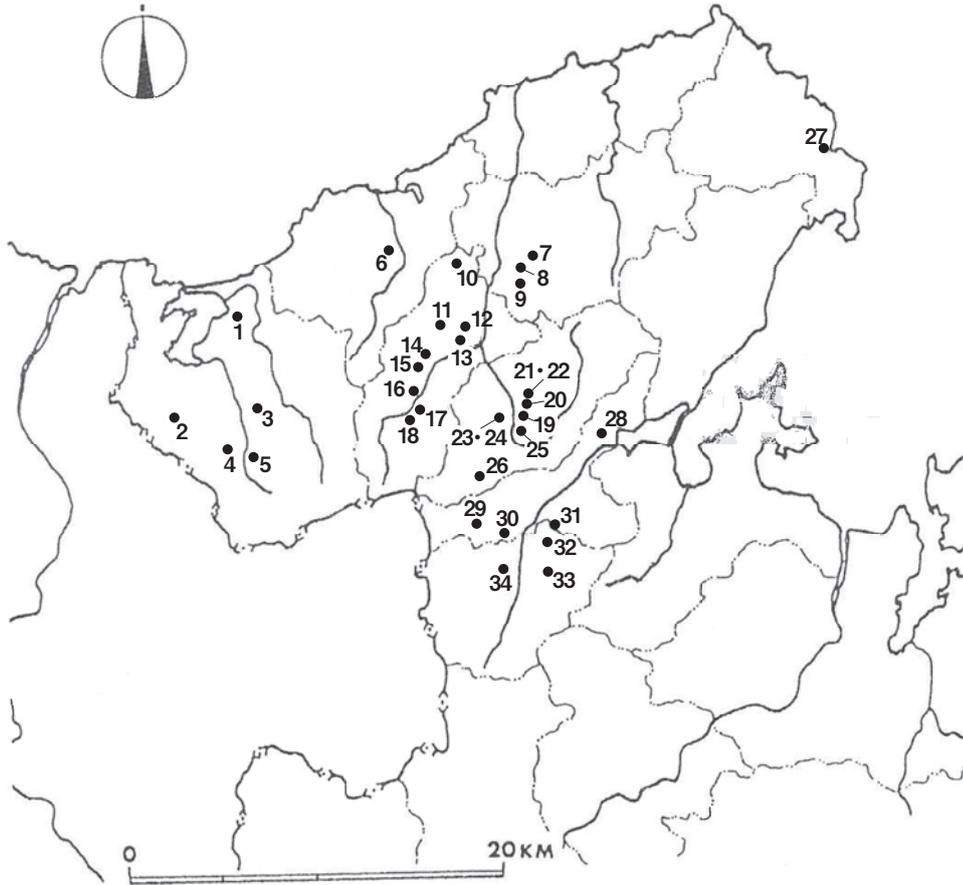
4 被葬者について

横穴墓の被葬者について考える際、その手掛かりとなるものに墨書土器、線刻土器の存在があります。大田鼻28号横穴墓から出土した「厨」墨書土器について考えると、「厨」とは本来、飲食物を調理する所を示し、一般的には官衙的性格の強い遺跡から出土する傾向があります。大田鼻横穴群の場合は、官衙的性格を持つ場所で用いられていた器物を副葬品として用いたか、被葬者が「厨」と関連性の強い人物であったと考えられます。

また、左坂横穴B支群では、火葬骨が出土する小横穴が見られます(B1号・B2号・B6号横穴墓)。また、骨蔵器を使用する火葬墓が1基確認されています。当時、火葬墓

を積極的に採用していったのが官人層及び僧侶とされており、この点からもこれら横穴墓の被葬者が下級官人層である可能性が考えられます。

なお、当時の丹後国府は宮津市府中付近と考えられ、丹波郡の中心は峰山町丹波付近と考えられています。共に大田鼻横穴群の位置する大宮町南部からは離れています。なお、大宮町口大野の正垣遺跡^{しょうがき}では、官人などが革帯を飾るために使用する石帯^{せきたい}や緑釉陶器^{りよくゆう}が出土しており、官衙的性格を持つ遺跡と考えられています。被葬者との関連を考える際、考慮すべき遺跡です。



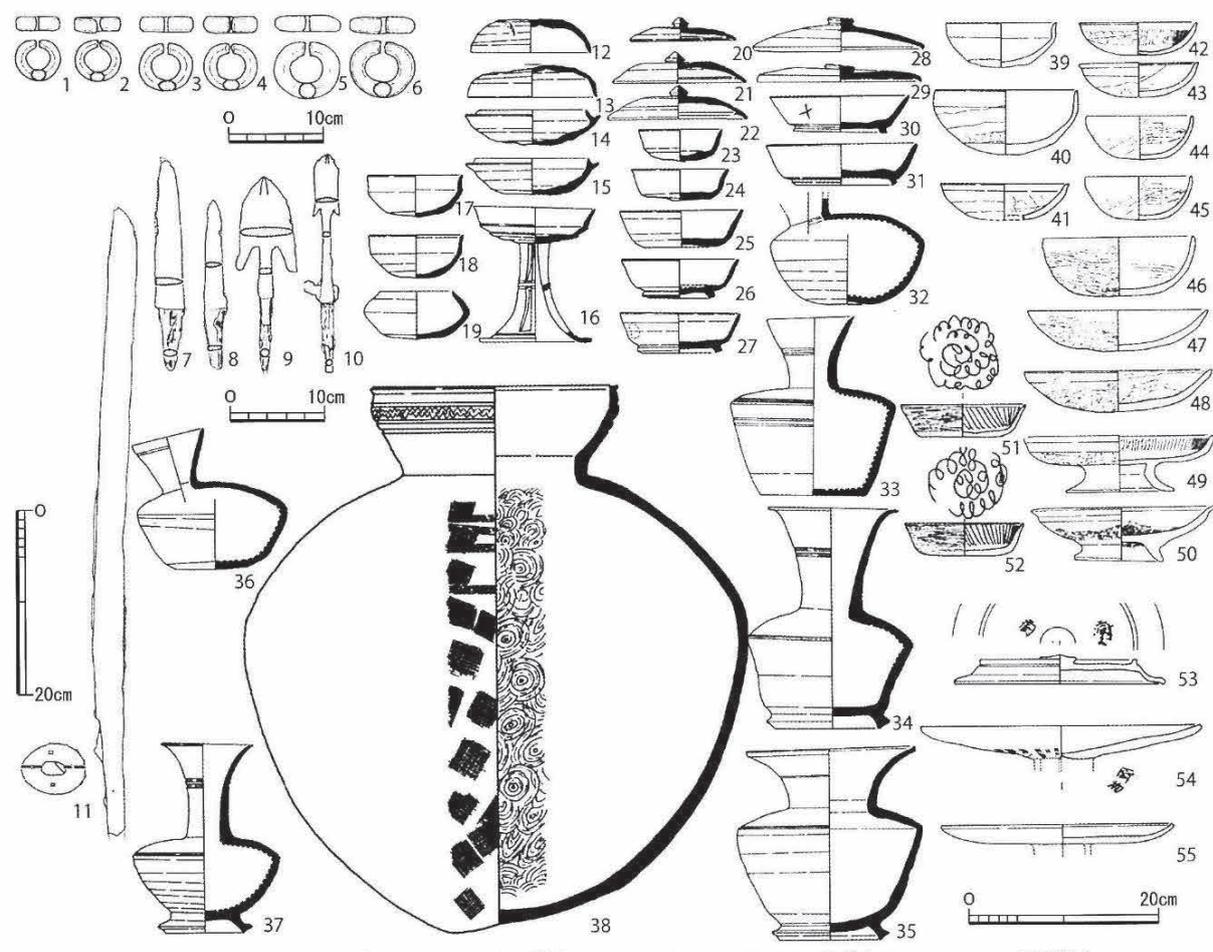
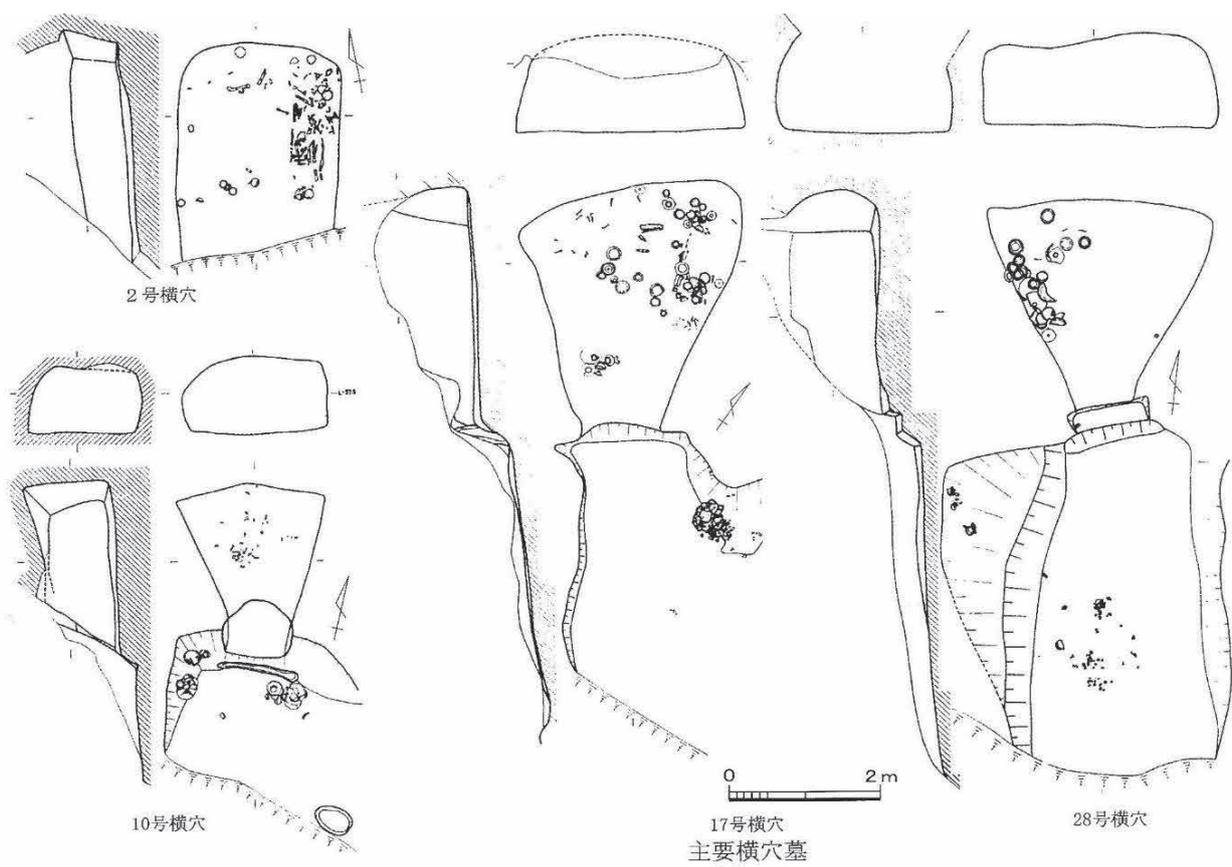
第1図 丹後横穴分布図



第2図 主要横穴群位置図

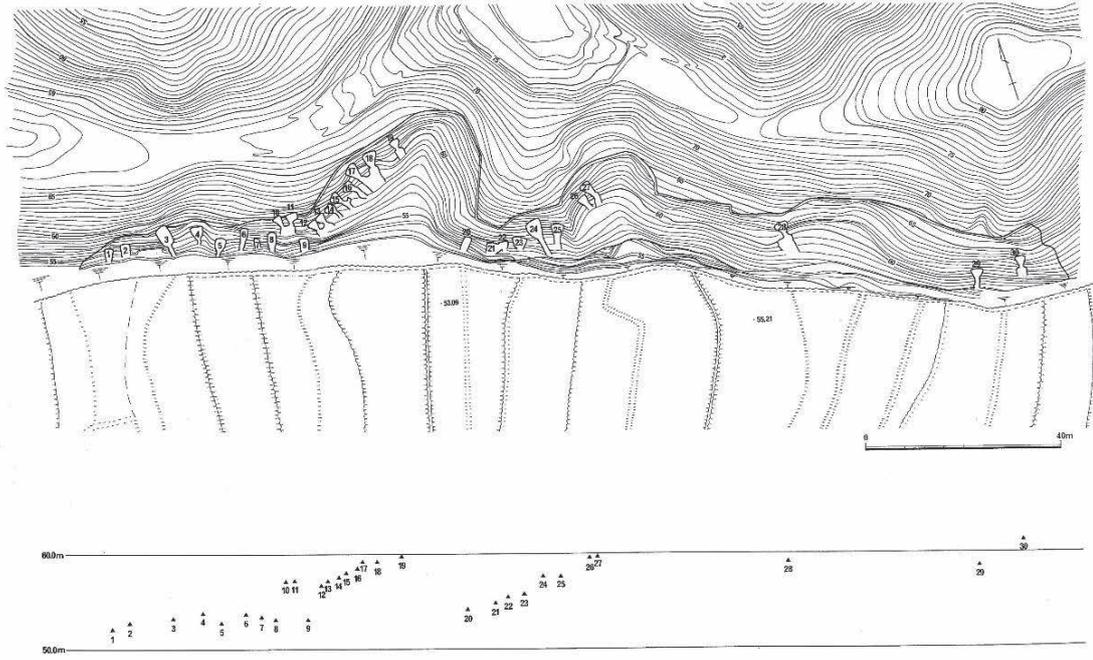
遺跡名	所在地	基数
1 長柄横穴	久美浜町長柄	7以上
2 白川横穴	久美浜町奥三谷	4
3 谷横穴	久美浜町谷	1
4 王の宮横穴	久美浜町須田	8
5 下宮谷	久美浜町金谷	
6 三反田	網野町下岡	10以上
7 住地横穴	弥栄町外村	1
8 飛谷横穴	弥栄町堤	2
9 城の越横穴	弥栄町堤	1
10 高尾坂横穴	峰山町橋木	1
11 丸山横穴	峰山町古殿	1
12 八幡山横穴	峰山町荒山	1
13 舟堂寺横穴	峰山町菅	3
14 目谷横穴	峰山町新治	8
15 船山横穴	峰山町二箇	1
16 下山横穴	峰山町五箇	11
17 脇谷横穴	峰山町五箇	2
18 筏ヶ鼻横穴	峰山町鱒留	3
19 有明横穴	大宮町三坂	9
20 大田鼻横穴	大宮町三坂	30
21 里ヶ谷横穴	大宮町三坂	6
22 左坂横穴A支群	大宮町周积	6
左坂横穴B支群	大宮町周积	13
23 裾谷横穴	大宮町口大野	2
24 エノボ横穴	大宮町口大野	2
25 大谷西横穴	大宮町谷内	5
26 丸山横穴	大宮町上常吉	1
27 小泊横穴	伊根町泊	1
28 城山横穴	与謝野町岩滝	1
29 庄内横穴	与謝野町岩屋	1
30 古屋敷横穴	与謝野町三河内	3
31 玉峠横穴	与謝野町石川	1以上
32 入谷横穴	与謝野町明石	2
33 こもり穴横穴	与謝野町温江	1
34 有熊横穴	与謝野町加悦奥	6

表1 丹後横穴一覧表

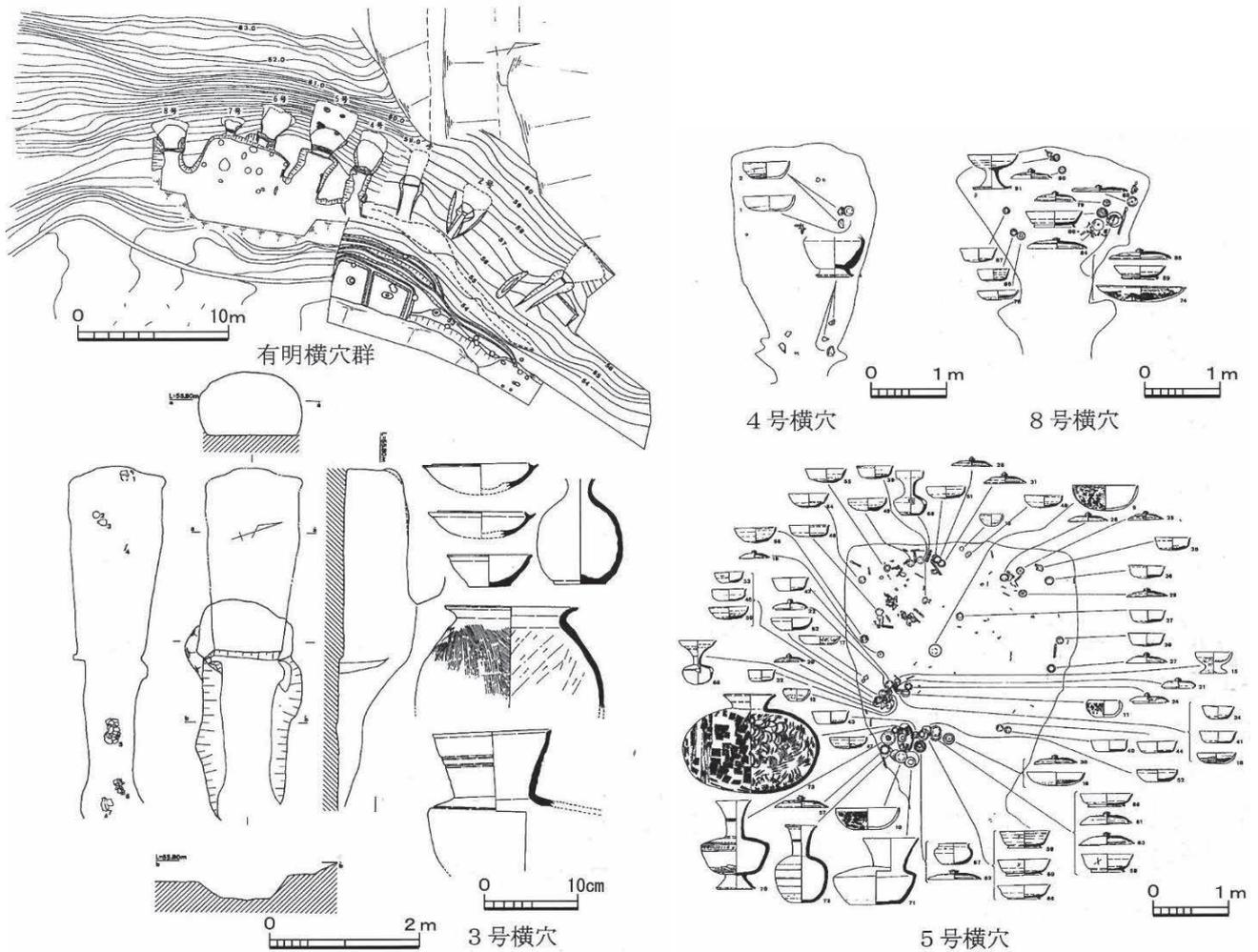


1~10, 12~19, 39, 40 2号横穴、32~35, 41 10号横穴、11, 20~27, 36~38, 42~50 17号横穴、28~31, 51~55 28号横穴
 2号横穴、10号横穴、17号横穴、28号横穴出土遺物

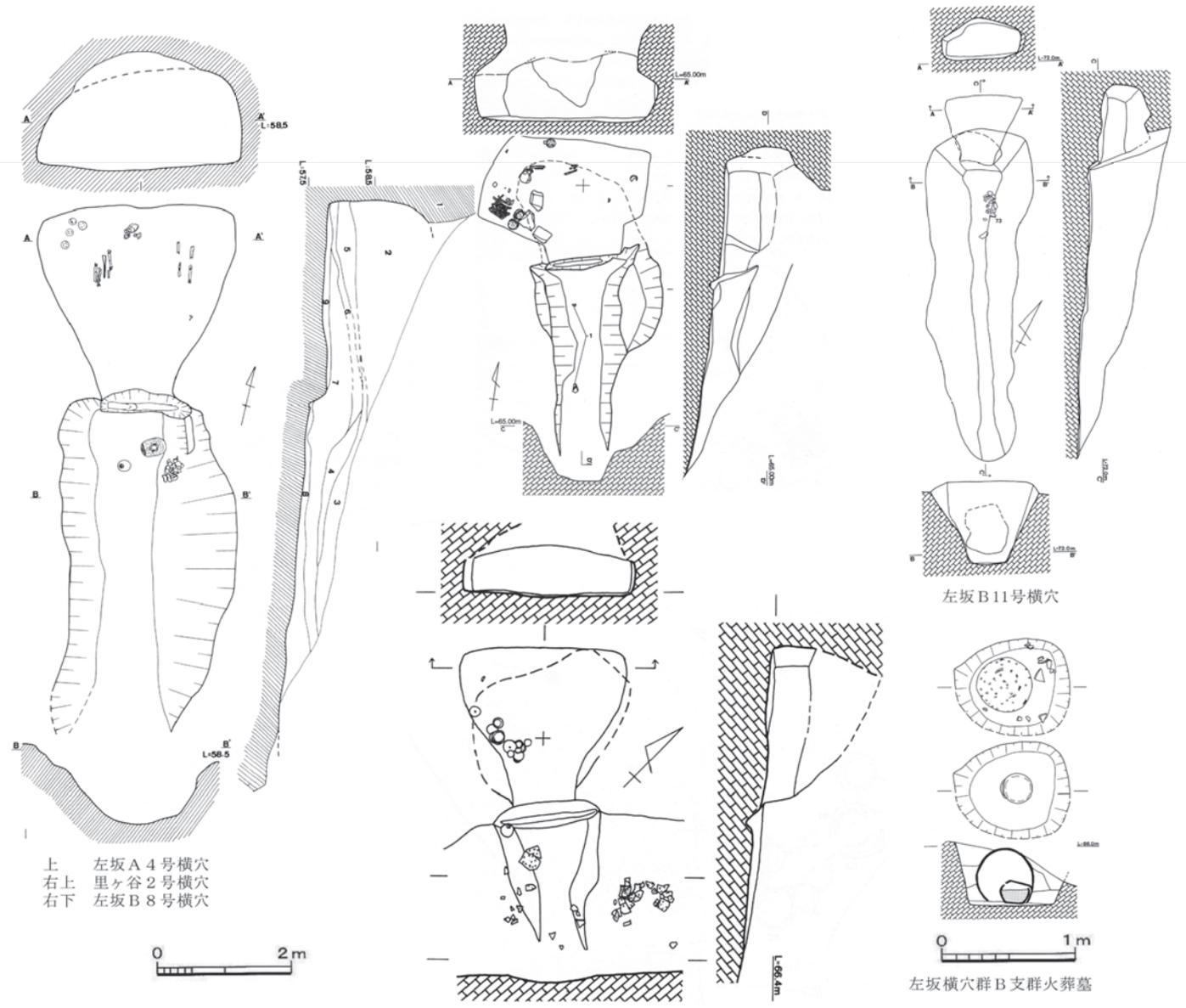
第3図 大田鼻横穴群



第4図 大田鼻横穴群遺構図



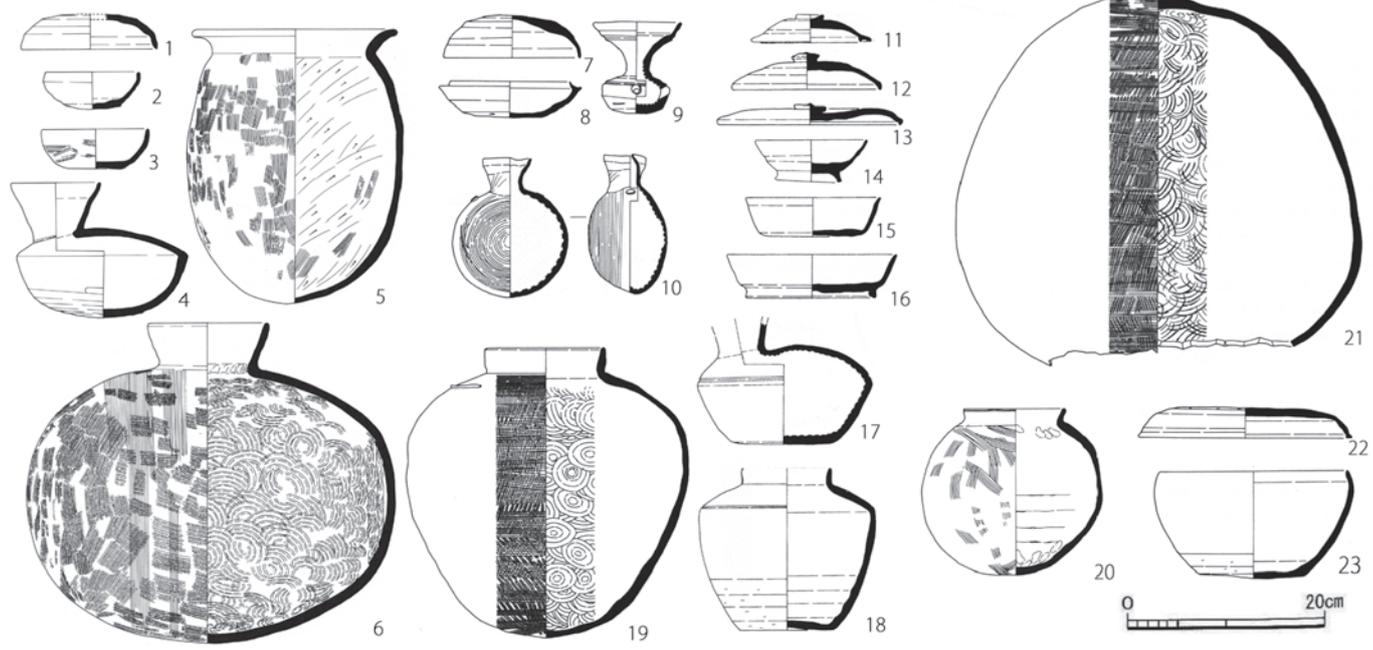
第5図 有明横穴群



上 左坂A 4号横穴
 右上 里ヶ谷 2号横穴
 右下 左坂B 8号横穴

左坂B 11号横穴

左坂横穴群B 支群火葬墓



1~6 左坂A 4号横穴、7~10 里ヶ谷 2号横穴、11~19 左坂B 8号横穴、20 左坂B 11号横穴、21~23 左坂B 支群火葬墓

第6図 左坂横穴群・里ヶ谷横穴群

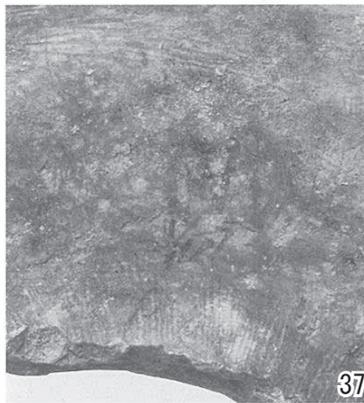
墨書土器

番号	遺跡名	所在地	出土位置	器種	墨書位置	墨書文字	時期	
1	こくばら野跡	久美浜町甲山	包含層	須恵器杯蓋	口縁部外面	□	8世紀前半	
2	竹野遺跡	丹後町竹野	土壌	土師器杯	底部外面	□	7世紀後半	
3			包含層	土師器杯	底部外面	右	8世紀後半	
4			包含層	黒色土器碗	底部外面	大	12世紀後半	
5			耕作土	黒色土器碗	底部外面	大	12世紀後半	
6				黒色土器碗	体部下半外面	□□	12世紀後半	
7			テヘン田遺跡	網野町島津	表採	須恵器皿	底部外面	厨
8	横枕遺跡	網野町島津	第1トレンチ谷堆積土	須恵器	細片	□	9世紀後半	
9				須恵器	細片	□	9世紀後半	
10				須恵器	細片	□	9世紀後半	
11				土師器杯	底部外面	山田	9世紀後半	
12				土師器杯	底部外面	山□	9世紀後半	
13				土師器杯	底部外面	山田	9世紀後半	
14				土師器杯	底部外面	□	9世紀後半	
15	浅後谷南遺跡	網野町公庄	SD2001	須恵器杯蓋	天井部内面	□	8世紀後半	
16				須恵器杯蓋	天井部外面	□□		8世紀後半
17				SD2005	須恵器杯身	底部外面	□	8世紀後半
18	俵野廃寺	網野町俵野	第1トレンチ	須恵器杯身	底部外面	□中	10世紀	
19				杭列板付近	須恵器杯蓋	天井部内面	十(漆記号)	8世紀前半
20				瓦堆積層	須恵器	外面	十	8世紀
21	城の越横穴	弥栄町堤	採集	須恵器杯	底部外面	上	7世紀後半	
22	シミズ谷城跡	弥栄町堤	土壌SK31	白磁皿	底部外面	上吉	15世紀後半～16世紀前半	
23	遠處遺跡	弥栄町木橋・鳥取	包含層	須恵器杯	底部内面	□	8世紀	
24	古殿遺跡	峰山町古殿	SD301	須恵器碗	体部外面	□		10世紀
25				須恵器碗	体部外面	今西	10世紀	
26	谷内遺跡	大宮町谷内	包含層	須恵器杯	底部内面	富	10世紀	
27				須恵器杯	底部外面	富	10世紀	
27				須恵器杯	底部内面	富	10世紀	
28	正垣遺跡	大宮町奥大野		黒色土器碗	体部下半外面	□	12世紀	
29				須恵器杯	底部外面	阿	8世紀後半	
30				須恵器杯	底部外面	貴	8世紀後半	
31				須恵器杯	底部外面	一	9世紀	
32	枯木谷遺跡	大宮町奥大野	河川跡1	須恵器杯	底部外面	□	8世紀後半	
33				須恵器杯	底部外面	□	8世紀後半	
34				須恵器杯	底部外面	□□	8世紀後半	
35				須恵器杯蓋	口縁部内面	成	8世紀後半	
36				須恵器杯蓋	天井部内面	食	8世紀後半	
37	大田鼻28号横穴	大宮町三坂	横穴玄室内	丹塗土師器高杯	杯部外面	□	8世紀中葉	
38				横穴玄室内	丹塗土師器高杯	杯部外面	厨物	8世紀中葉
39				横穴玄室内	丹塗土師器高杯	天井部外面	厨 厨人	8世紀中葉
40	沖田遺跡	大宮町森本	SD07	黒色土器碗	体部下半外面	□	12世紀後半	
41			包含層	土師器皿	底部内面	(動物絵画)	13世紀前半	
42			G32包含層	土師器皿	体部内面	□	13世紀	

※□は、判読不能のもの

線刻土器

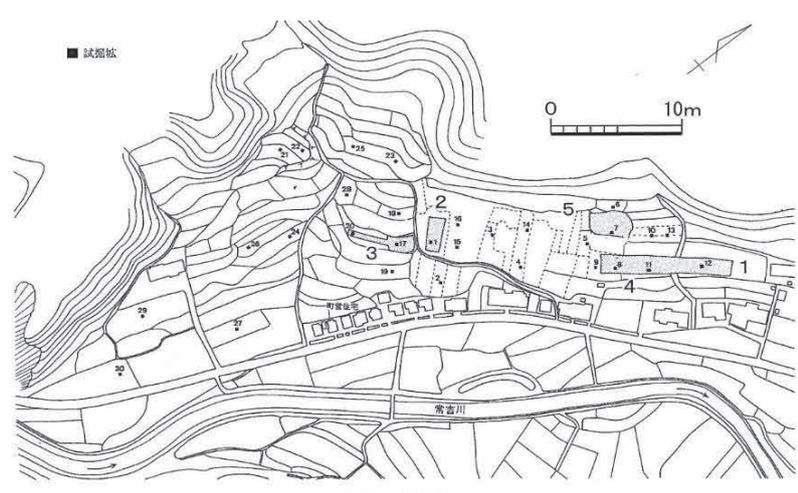
番号	遺跡名	所在地	出土位置	器種	線刻位置	線刻文字	時期	
1	奥ヶ谷	久美浜町須田	表採	須恵器壺		「田下」		
2	堤谷窯跡	久美浜町丸山	灰原	須恵器杯蓋	つまみ	「□□□」	8世紀前半	
3	矢田城跡	弥栄町和田野	2号墳相当部	越前焼甕	肩部	「大」	14世紀前葉	
4	水戸谷遺跡	大宮町三重	経塚SX10	越前焼壺	肩部	「井」	13世紀後葉	
5	有明5号横穴	大宮町三坂		玄室内	須恵器杯蓋	天井部外面	「奉」(焼成後)	7世紀後半
6				玄室内	須恵器杯	底部内面	「奉」(焼成後)	7世紀後半
7				玄室内	須恵器杯	底部内面	「奉」(焼成後)	7世紀後半
8				玄室内	須恵器杯	底部内面	「奉」(焼成後)	7世紀後半
9	阿婆田C-2号窯跡	大宮町善王寺	流入土	須恵器杯蓋	天井部外面	「□田」	8世紀後半	



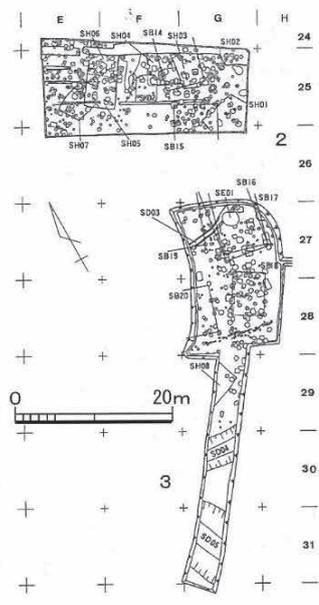
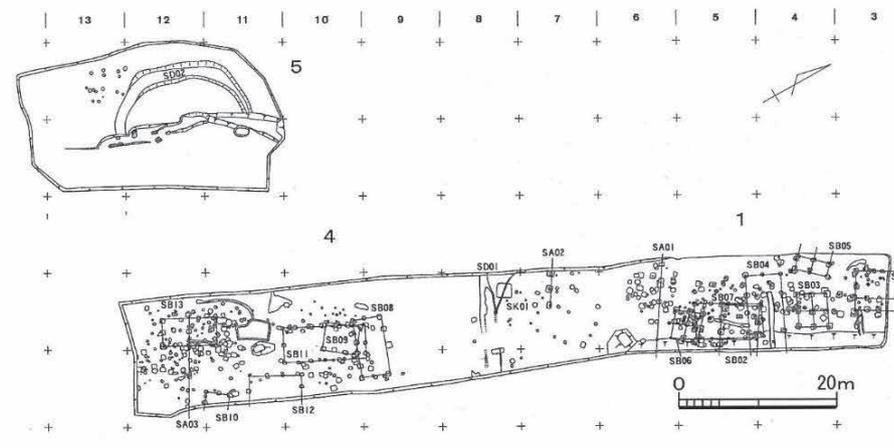
大田鼻28号「厨」「厨物」「厨人」墨書土器



有明5号「奉」線刻土器

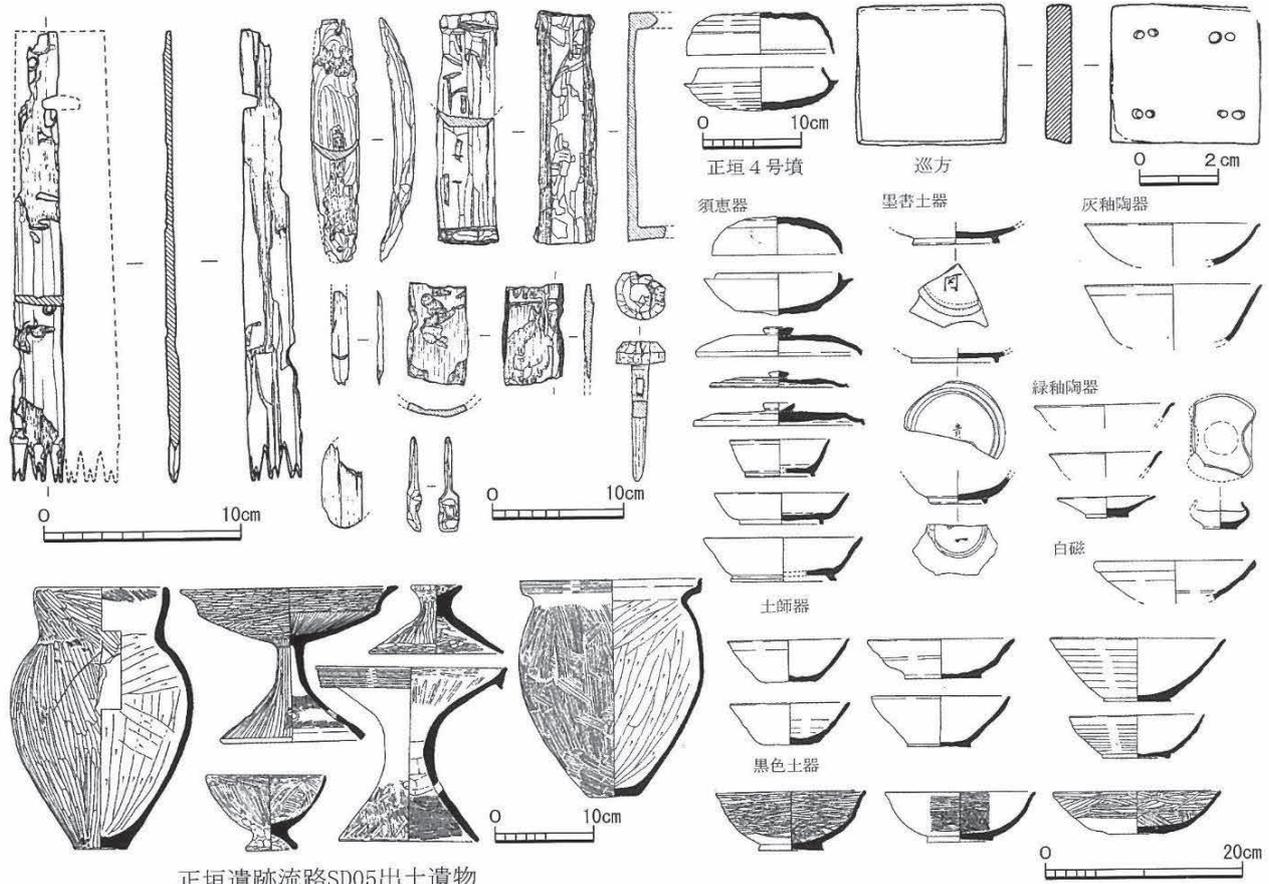


正垣遺跡



2、3トレンチ

1、4、5トレンチ



正垣遺跡流路SD05出土遺物

正垣遺跡出土遺物

第8図 正垣遺跡

南山城地域の横穴墓群

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

加藤 雅士 主任

はじめに

ここでは、旧巨椋池おぐらいけより南である南山城地域の横穴墓についてお話しします。まず、畿内における横穴墓の分布をみると、南山城地域に加え、中河内地域、大和東部～南部の地域、大和北部の地域に偏在していることがわかります。河内地域では柏原市域に横穴墓が集中していて、中でも線刻画せんこくがをもつ高井田横穴群が有名です。また、近年では、北河内にも横穴墓の存在することが明らかになりました。大和北部の地域の横穴墓については、南山城の横穴墓との共通点が指摘されています。

1. 当該期の南山城地域の状況

南山城地域で横穴墓が盛んに作られるのは、6世紀後半から7世紀前半にかけての時期です。古墳時代後期から飛鳥時代にあたりますが、一部の横穴墓は奈良時代まで作られていたようです。この時期の南山城地域では、横穴墓以外の古墳も作られていますが、規模の大きな群集墳ぐんしゅうふんは見られないという特徴があります(小泉2009)。木幡古墳群こはたや車谷古墳群を除くと、古墳群は数基～10基程度で構成されており、他の地域にくらべて古墳群を構成する古墳の数が多くありません。有力者の墓と考えられる大きな横穴式石室よこあなしきせきしつは、6世紀後半には黒土1号墳くろつち、堀切1号墳ほりきり、前櫛2号墳まえくぬぎがあります。横穴墓が多数つくられる木津川左岸の八幡市から京田辺市にかけての一带では、古墳は横穴式石室ではなく木棺直葬もつかんじきそうという形態をとっています。

2. 南山城地域の横穴墓

南山城地域に存在する横穴墓群は、以下の表にあるとおりです。南山城地域に横穴墓が存在することが、学界に初めて報告されたのは大正元年のことです。この時報告されたのは京田辺市の松井横穴群ですが、当時、畿内全体でも松井横穴群を含めて3つの横穴群しか知られていませんでした。戦後、南山城地域での横穴墓の報告例は少しずつ増えていきますが、とりわけ1990年代後半以降に行われた、第二京阪道路と新名神高速道路の建設にともなう発掘調査により、南山城地域には横穴墓が非常に多く存在することが明ら

かになってきました。とくに八幡市から京田辺市にかけての1.5kmの範囲には^{きつねだに}狐谷横穴群、^{みのやま}美濃山横穴群、^{おんなだに}女谷・^{あらかさか}荒坂横穴群、松井横穴群が集中して存在しています。

遺跡名	所在地	確認数	時期	備考
狐谷横穴群	八幡市美濃山	8基	6世紀後葉～7世紀前葉	さらに存在すると想定
美濃山横穴群	八幡市美濃山	6基	古墳後期	
女谷・荒坂横穴群	八幡市美濃山・内里、 京田辺市松井	87基	6世紀後半～8世紀中頃	推定300基超
松井横穴群	京田辺市松井	81基	6世紀後半～7世紀末	推定300～400基
堀切谷横穴群	京田辺市新	10基	6世紀後半～7世紀前半	横穴式石室墳と混在
飯岡横穴群	京田辺市飯岡	2基	6世紀後半	
北谷横穴群	木津川市山城町北河原	4基	6世紀後半	木津川右岸の唯一例

※『京都府遺跡調査報告集』第157・168冊を基に作成

3. 松井横穴群の調査

八幡市から京田辺市にかけての横穴の具体的な例として、最近当調査研究センターが発掘調査を行った松井横穴群を紹介します。松井横穴群は京田辺市北部の^{むかいやま}松井向山・^{かみにしうら}上西浦にあり、山地から平地部へ伸びる丘陵支脈上に所在しています。付近では、大和地域から北上する旧街道の存在が足利健亮氏によって指摘されています。また、旧街道と南山城から河内へ抜ける峠越えの道が松井付近で交わり、交通の要衝となっています。発掘調査は新名神高速道路の建設に先立ち、平成23年度から平成26年度にかけて4次にわたり行いました。発掘調査の結果、調査範囲内で70基の横穴を確認しました。

横穴は、入口にあたる^{ぼどう}墓道、遺体を納める部分である^{げんしつ}玄室、墓道と玄室の間にある^{せんどう}羨道で構成されています。このうち羨道と玄室は、天井がある空間となっています。玄室からは埋葬された人骨や副葬品が出土しました。出土した人骨の位置をみると、頭の骨の近くに足の骨があるなど本来の位置になく、遺体が^{ふきゅう}腐朽した後に動かされたと考えられます。また、ひとつの横穴の玄室には複数人分の人骨が納められており、^{ついそう}追葬が行われていたようです。副葬品で最も多いのは土器類で、なかでも^{すえき}須恵器が主体を占めています。須恵器は^{つき たかつき}杯や高杯とよばれる、飲食の際に使用する形態のものがほとんどです。同じく副葬品として鉄製の^{とうす}刀や^{てつぞく}刀子、鉄鎌が出土しています。しかし、これらが玄室から出土している横穴は22基にとどまっており、被葬者が高位の人物でなかったと考えられます。

特徴的な遺物として、40号横穴の^{とうかん}陶棺があります。本来、陶棺は身体を伸ばした大人の遺体を納めることができる大きさがあり、大和北部の横穴墓でよくみられます。これに比べて40号横穴墓の陶棺は全長が80cmほどの小型のもので、非常に珍しいものです。似た例は奈良市の^{ほうらい}宝来横穴群にあり、両地域の関係性が気になるようです。

4. 大規模な横穴群の位置付け

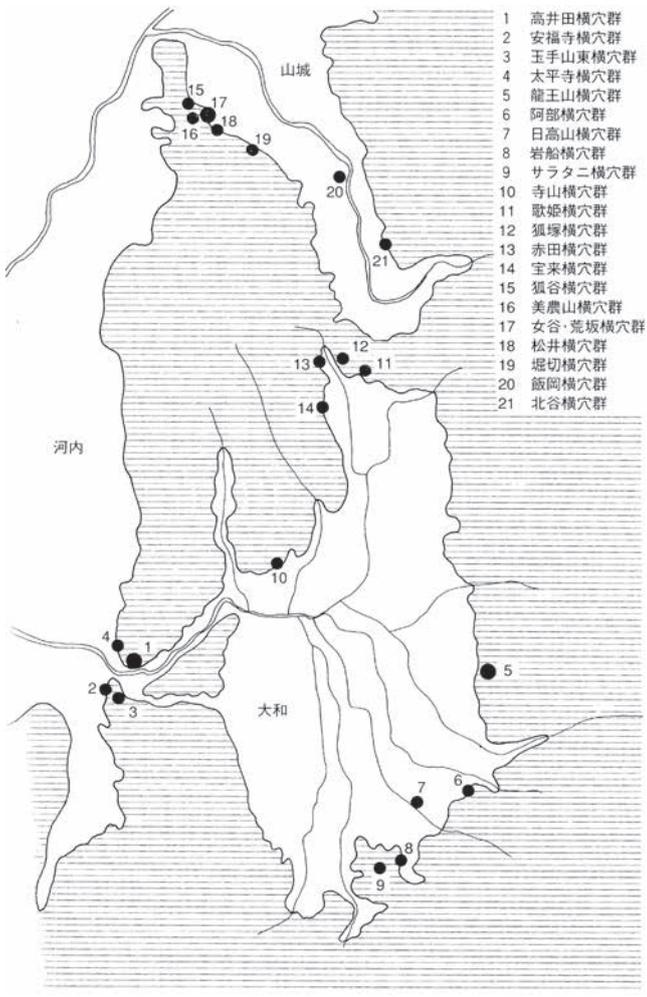
八幡市から京田辺市にかけての一带には横穴群が集中していますが、中でも女谷・荒坂横穴群と松井横穴群では多数の横穴墓が調査されました。発掘で得られたデータを基にすると、女谷・荒坂横穴群で300基を大きく超える横穴墓が、松井横穴群では300～400基の横穴墓が遺跡範囲に存在することが想定できます。合計すると想定数が600～700基となるほか、狐谷横穴群でも調査範囲外に多数の横穴墓が存在するのではないかと指摘されています。

ではこの多数の横穴墓は、どのように意義付けられるのでしょうか。古墳の規模や形状を読み解くことによって、当時の権力構造を垣間見ることができるのが古墳時代の特徴のひとつです。墳墓のあり方が権力にコントロールされていた時代の特徴からすれば、大規模な横穴群の造営は、少なくとも中央の政権から承認されていたと、まず考えることができます。

次に後の時代の文献資料に目をやると、八幡市から京田辺市の横穴群の周辺には隼人^{はやと}や土師氏^{はじし}、渡来系の人々がいたことが伺えます。隼人は九州南部の人々が連れてこられ、朝廷の儀式に関わった人々の末裔で、大住^{おおすみ}にいたとされます(「正倉院文書」『寧樂遺文』山背国隼人計帳)。土師氏は土器や埴輪^{はにわ}づくり、葬送儀礼に関連する集団で、内里^{うちさと}にいたと考えられます(『日本書紀』雄略天皇17年3月戊寅(2日)条)。また松井には、渡来系の松井氏がいたことが伺えます(『続日本紀』天平宝字5年3月庚子(15日)条)。特徴的なのは、文献にみえる人々はいずれも中央との関わりが考えられる集団である点です。八幡市から京田辺市にかけての横穴群が集中する一带は、旧街道と河内への峠越えが交差する交通の要衝ですが、このような要衝に隼人が人為的に配置されたといわれています。先に中央の政権から承認があったとしましたが、さらに一步踏み込んで、中央の政権が大規模な横穴群の造営に直接的に関わっていた可能性があります。

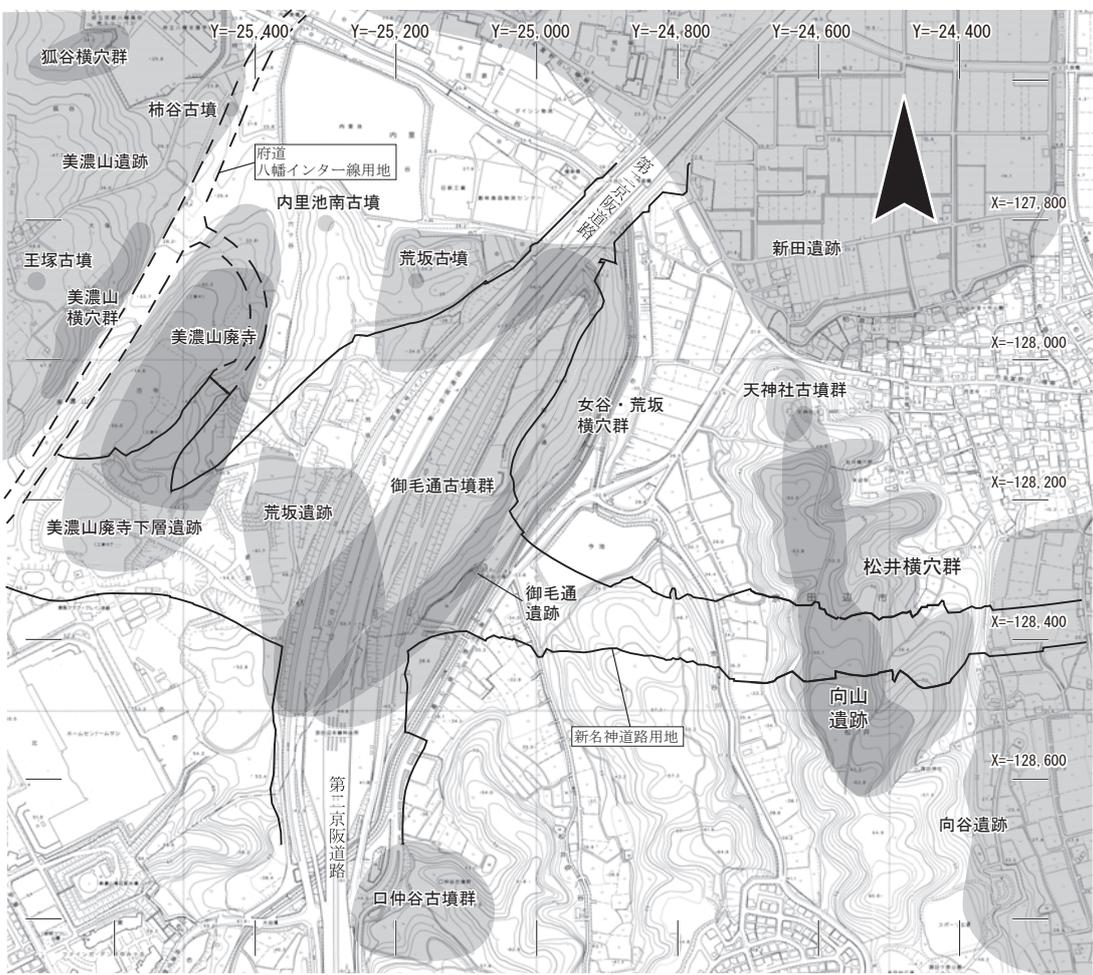
古墳時代後期の特徴として群集墳の出現があげられます。それまで地域の有力者を通じた間接的な支配だったものが、中央政権の掌握が一般民衆まで直接的に及ぶようになったとされています。その過程で、これまで古墳に埋葬されなかった有力家長層が古墳に埋葬されるようになったのが群集墳として理解されています。先にも述べたように南山城地域では群集墳は顕著ではありませんが、副葬品の内容に大きな差がないことから、大規模な横穴群は群集墳と同様のものと考えられます。また、その背景には、中央政権による南山城地域の掌握の進展を伺うことができます。

小泉裕司「南山城地域の群集墳」(『京都府の群集墳』第16回京都府埋蔵文化財研究会2009)

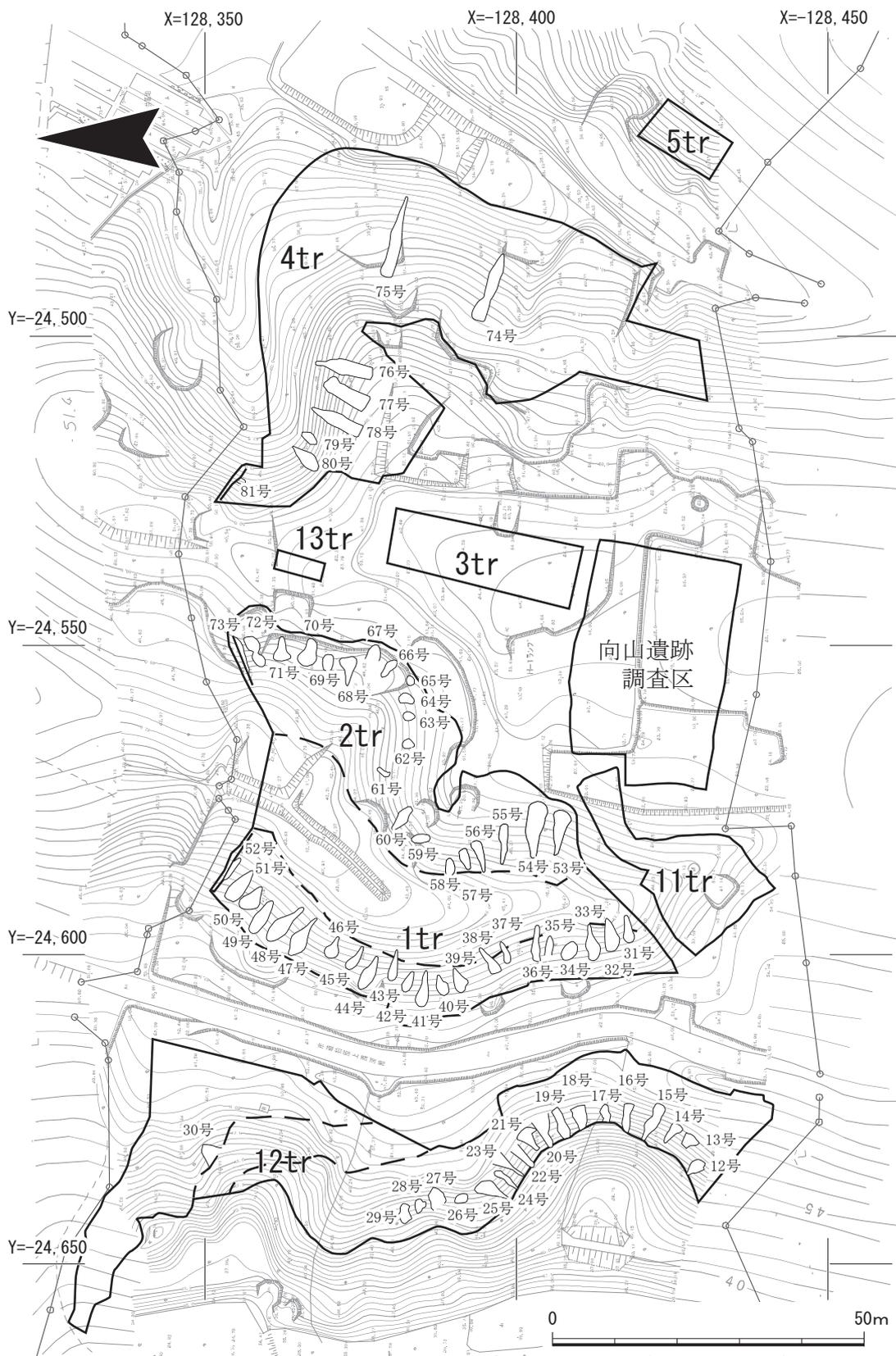


第1図 畿内の横穴群

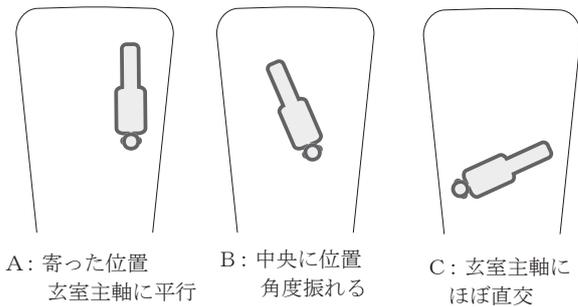
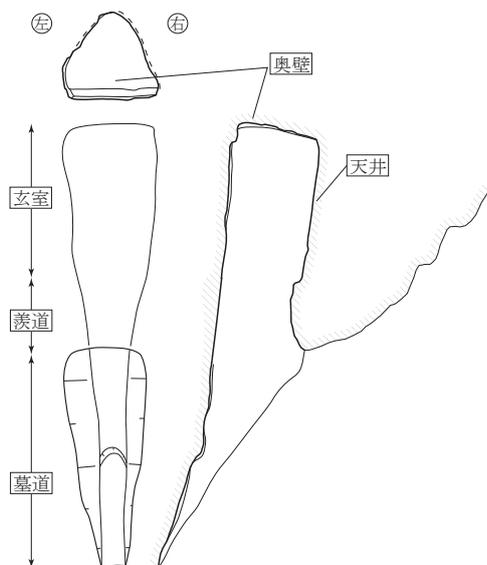
(安村俊史『群集墳と終末期古墳の研究』清文堂 2008より引用・変倍)



第2図 八幡市から京田辺市にかけての横穴群の分布



第3図 松井横穴群遺構配置図



第5図 埋葬のパターン

第4図 横穴の各部名称

横穴名	鉄器	出土点数					備考
14号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
15号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
27号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
29号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
32号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
41号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
45号横穴	鉄刀						鉄斧、紡 錘車
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
50号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
59号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
62号横穴	鉄刀						曲刃鏃
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
64号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						

横穴名	鉄器	出土点数					備考
65号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
67号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
68号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
69号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
70号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
71号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
72号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
74号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
75号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
78号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						
80号横穴	鉄刀						
	鉄鏃 (長頭鏃)						
	鉄鏃 (平根系)						
	刀子						

※出土点数は残存状況を加味した。例えば刀子の刀身部片と茎片が1点ずつ出土している場合は合計して1点と数えた。

第6図 鉄器の保有状況

群集墳としての横穴墓群

京都橘大学大学院文学研究科

一瀬 和夫 教授

1. 日本の横穴系埋葬施設

a. 横穴式

横に通路がある埋葬施設には^{たてあな}竪穴系横穴式石室、^{よこあなしき}横穴式石室、横穴式^{せっかく}石槨、横穴があります。

ほかに、茨木市^{じょうじやま}上寺山古墳や堺市^{とうききた}陶器北遺跡の横穴式^{もっかく}木槨(横穴式^{もくしんねんどしつ}木芯粘土室、^{ようかく}窯槨、カマド塚)などがあり、兵庫県から埼玉県にかけて分布し、3分の1が火葬です。

b. 横穴

横穴墓は、丘陵斜面及び崖面に分布、^{ぼどう}墓道は尾根筋ではなく谷の方にあります。その上に、径10mほどの円墳をもつ^{ゆくはししたけなみ}行橋市竹並遺跡や^{むなかたしくど}宗像市久戸古墳群・^{いきめ}山口市朝田墳墓群といった墳丘をもつものがあります。前方後円墳に地下式横穴がある宮崎市^{いきめ}生目古墳群もあります。

5世紀の竹並横穴墓群を初現とし、6世紀前半には南九州から本州各地にひろがります。(白石太一郎1985『古墳の知識』Ⅰ 東京美術、池上悟1980『横穴墓』ニューサイエンス社など)

2. 初期の横穴と百済との関係

(柳沢一男2017「韓国で発見された横穴墓・地下式横穴墓と九州」『一般社団法人日本考古学協会2017年度宮崎大会 研究発表資料集』)

a. 竹並横穴群の出現と百済地域の横穴墓との関係

5世紀中葉にはじまる九州初期の横穴墓は、玄室の平面形に多様性があります。5世紀中葉にはじまる横穴に先行して、^{ちかしき}地下式横穴の^{かのやし}鹿屋市岡崎18号墳が前葉にさかのぼると考えられます。

韓国では横穴が、2017年現在、計36基が確認されます。^{くだらウンデン}百済熊津・^{サビ}泗泚期、^{タムガン}錦江沿いの^{コンジュタンヂリ}公州付近に集中します。公州丹芝里遺跡4区では、低丘陵斜面に^{せきちくふん}石築墳(石室・^{せっかく}石槨)14基とともに横穴墓24基が確認されます。5世紀末～6世紀前葉の熊津期、竹並遺跡例に似ます。墓道の平面は逆台形、^{たてあな}竪坑は^{げんしつ}竪穴式と傾斜式、^だ玄室は縦長長方形・楕円形・トンネル

形があります。埋葬は複数で、土器・鉄器・耳環^{じかん}が出土します。地下式横穴は、公州熊津^{ウンジン}洞古墳群^{ドン}で4基、扶余陵山里ヌンニ古墳群^{フヨヌンサンリ}で1基など計7基。今のところ、柳沢一男は豊前・豊後^{ぶぜん ぶんご}より百済が先行するのは難しいとしています。朴天秀^{パクチョンス}は、丹芝里^{タンジリ}が九州北東部と類似、副葬品などからその被葬者は九州北部の倭人^{わじん}集団とします。

b. 竹並と丹芝里

両者の類似性は、玄室平面形の多様性、墓道掘削法、墓道底面と玄室床面との段差というものがあります。違いは、玄室前端の玄門^{げんもん}表現、玄室床面への礫敷^{れきじ}き、羨門^{せんもん}閉鎖における板石の多用があります。後二者は、大分県上ノ原横穴群では一般的なものです。

3. 日本列島内の横穴波及と他の埋葬施設との関係

a. 南九州、児湯・大淀川下流地域の混在する横穴系埋葬施設間の状況

盟主的階層は、6世紀前半以降には横穴式石室。地域首長層と目される中小前方後円墳・大型円墳は、6世紀以降、横穴式石室が優勢。地域有力者層・首長に付随する有力者は、5世紀初めからはじまった地下式横穴墓を継続。地下式横穴と横穴に明確な階層差が見られないと和田理啓は大きく3階層、3種の埋葬施設の関係を考えます。

(和田理啓2017「南九州における横穴系埋葬施設の多様性」)

b. 日本海側でのあり方

6世紀後葉からの出雲は、その東部では群集墳^{ぐんしゅうふん}のすべてが横穴墓。横穴式石室墳10基、横穴墓群^{もつかんちよくそう(じきそう)}20群。木棺直葬群集墳から横穴墓へ移り、大谷晃二は地質条件を指摘します。西部では少数の石室群集墳と多数の横穴墓群が混在します。石室群集墳の方は、副葬品が上位・首長層と結びつき、石室構築の労働力を確保し、7世紀に石室が縮小し、横穴へ移行します。

備中・備後山間部^{びっちゅう びんご}、因幡は、多数の石室群集墳と少数派の横穴墓の混在。双方は、造墓労働力の保有差と経済力によるとし、一方、日本海の横穴墓の造墓は石室石材の不足、石室労働力を持たず、7世紀の薄葬化^{はくそう}によって墓室構築を優先としたと大谷晃二は考えます。

(大谷晃二2017「山陰・北陸－出雲地方を中心に－」)

丹後には、横穴墓集中地域(丹波郡大宮)があります。ここでは石室群集墳はほぼ無く、大田鼻が30基、左坂は19基、有明が9基の横穴が確認されています。6世紀末から7世紀前半最盛期をへて、8世紀前半にいたります。石室の方は6世紀末に最大になり、7世紀前半に急激に縮小、横穴は8世紀に縮小します。有力な石室墳には新戸1号と桃谷1号があります。

(中村彰伸2018「丹後における横穴墓の立地とその階層性」『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』
京都府立大学文学部歴史学科)

c. 東海地方のあり方

東海各地域の埋葬施設は多様です。西・中遠江地域は6世紀前葉から、横穴式木室・土坑や横穴墓が導入されます。

(鈴木一有2017「東海地方における横穴系埋葬施設の多様性」)

4. 畿内の横穴

a. 高井田横穴と平尾山古墳群

平尾山古墳群(625ha)は円墳に横穴式石室が中心の群集墳です。古墳群の南側の玉手山凝灰岩層を利用する高井田横穴群の1～4支群は30haで5%にすぎません。そこに250基前後が集中します。大和川をへだてた南には安福寺横穴群27基、玉手山東横穴群31基があります。長方形や正方形の平面形で家形模倣のAタイプ、ドーム形の天井のBタイプ、片袖式のCタイプに花田勝弘は分けます。Aタイプの天井と側壁の間に軒状の挟りがある横穴が特徴的です。これらに比べて、平尾山古墳群の西にある太平寺横穴群6基は羽子板・飯匙形の無袖、アーチ形の天井のDタイプで、6世紀末～7世紀後葉と平尾山古墳群の石室造墓と同期します。

(花田勝弘1990b「河内の横穴墓－高井田横穴群の基礎的調査」『考古学論集』第3集、
花田勝弘1990a「畿内横穴墓の特質」『古文化談叢』第22集)

平尾山古墳群の石室のピークは6世紀末～7世紀前半です。これと同じような時期に併行してつくられるのが、大和東南の龍王山古墳群内にある横穴は羽子板状、無袖式の横穴で、石室墳と同一墓域にあります。山城西南の女谷・荒坂横穴群や大和北部の横穴は、先尖アーチ天井、玄室は羨道より一段高いもので、無袖で縮小化したものです。

(花田勝弘2017「畿内における横穴系埋葬施設の多様性・地域性と階層性」)

b. 高井田横穴群と高井田山古墳、そして百済の古墳

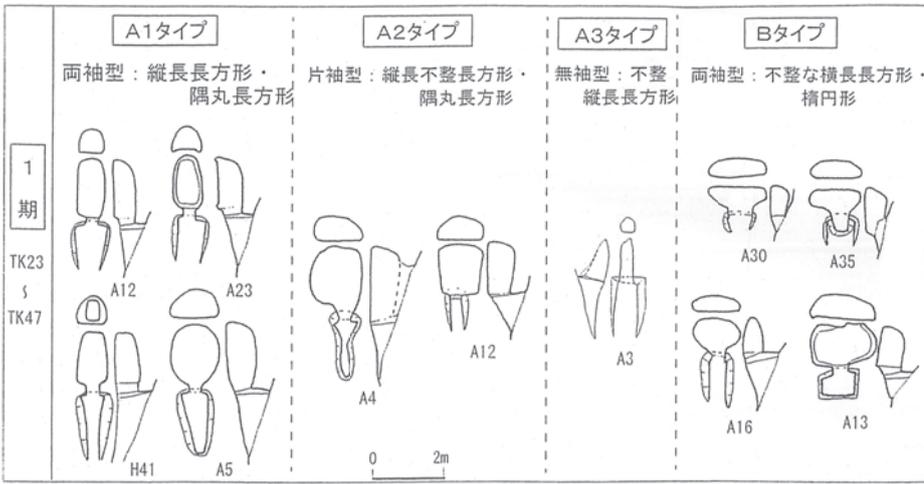
高井田山古墳は頂上から南に派生する中央丘陵頂端にあり、東西には両翼の丘陵をもった典型的な「風水」の立地です。この古墳は5世紀後葉につくられますが、70年後に、横穴の支群が古墳のある中央斜面に第2支群の北・南群、東の丘陵斜面に第1支群、西の丘陵斜面に第3・4支群を設けます。それぞれの支群設定を示すようにそれぞれ1基ずつの横穴からはじまります。第4支群は当初は予定されなかったようです。竹並遺跡同様に多様なタイプではじまり、6世紀中葉になり墓道底面と玄室床面とのには顕著な段差はなく玄室の方が高くなる変化と時期的な傾向も合います。高井田横穴群の3つのタイプにわか

れる横穴のうち、高井田山古墳の石室と羨道のようなCタイプが4-33号墓で築かれます。このタイプはすぐに続かなくなりますが、全体として6世紀後葉に爆発的に増え墓域が埋めつくされていきます。

5. 群集墳としての横穴群と百濟の動向

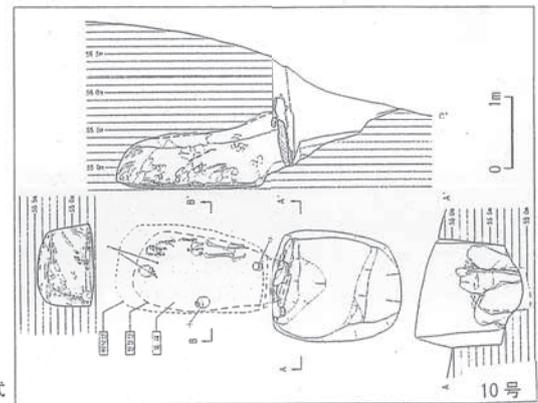
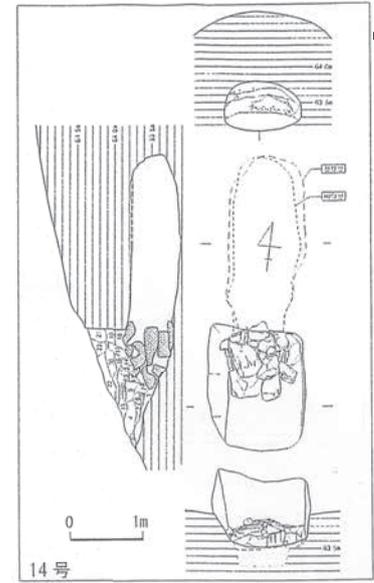
高井田横穴群は、平尾山古墳群に接して、大阪府陶邑古窯址群のTK10(高蔵10号窯)併行期(6世紀中頃)の早い時期に造墓が開始され、同TK209(6世紀末頃)には凝灰岩の崖面を埋めつくし終了します。それと入れ違いに、龍王山古墳群内にある横穴群などや単独の歌姫横穴群の大和と堀切古墳群内にある横穴群、単独の女谷・松井の横穴群の山城西南が展開します。荒坂横穴群は平尾山古墳群のものにやや遅れる古いもので、6世紀後半が築造時期、女谷横穴群は6世紀末～7世紀前葉、松井横穴群も同様、松井横穴群の場合31～52号、53～73号それぞれを先行して設定されています。山城西南の一群は堀切横穴群から考えると墳丘が古墳の構成からはずれていき、さらに墓室構築のための石室や石棺石材といった他集団との調整がいないという、より集約的で小面積な墓域構成になっていきました。

ただし、6世紀代については少なくとも高井田山古墳の横穴式石室と横穴墓域の関係性、墓室空間の変化の類似性をみるときに、百濟集団の流入とその墓域の配分を考えます。それ以降の群集墳内の入り込みとその後の墓域の割り当てが造墓構成をより複雑にしたと思われれます。



①福岡県竹並遺跡の初期横穴墓

(竹並遺跡調査会編1979『竹並遺跡(横穴墓)』付図2・本文から一部抽出・改変)

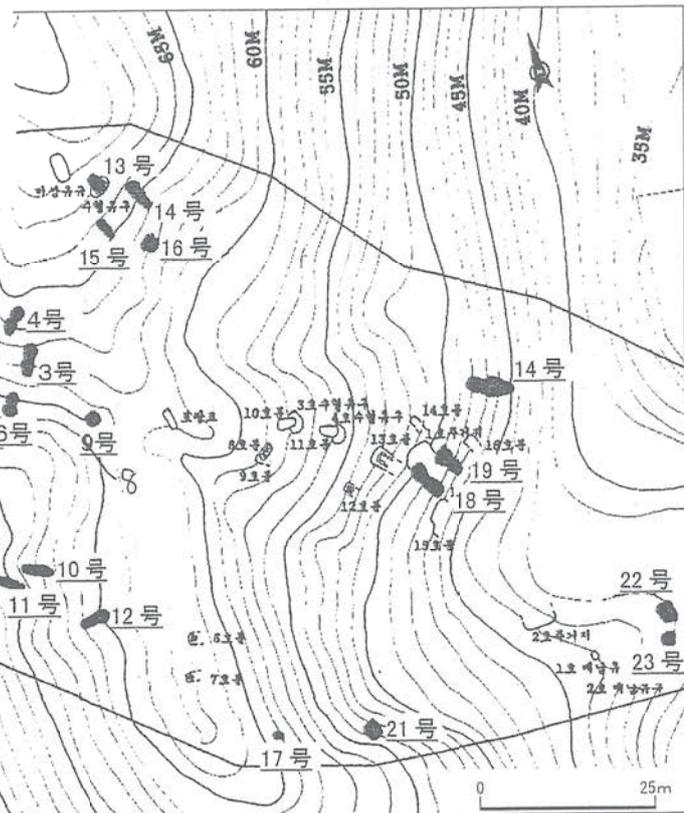


④丹芝里遺跡横穴墓の諸形式

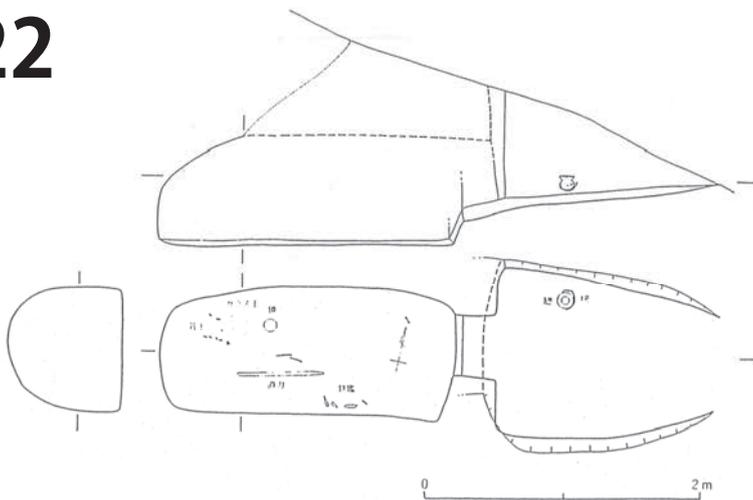
(形式は柳澤分類、墓道断面形、墓道と支室段差区分は報告書による)



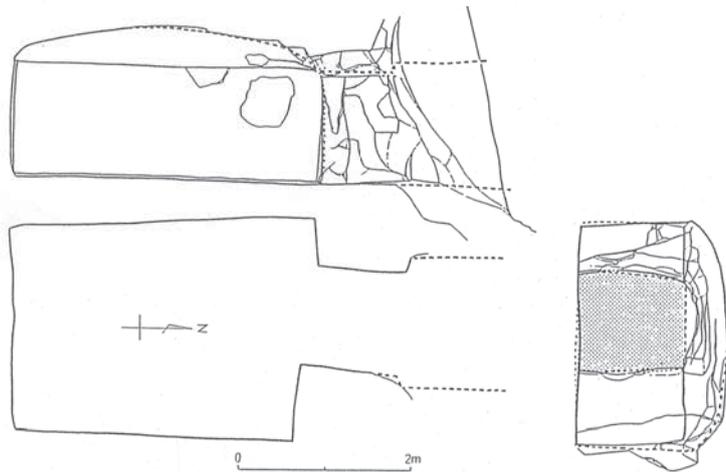
②韓半島の横穴墓・地下式横穴墓の分布域と九州の初期横穴墓・地下式横穴墓の分布



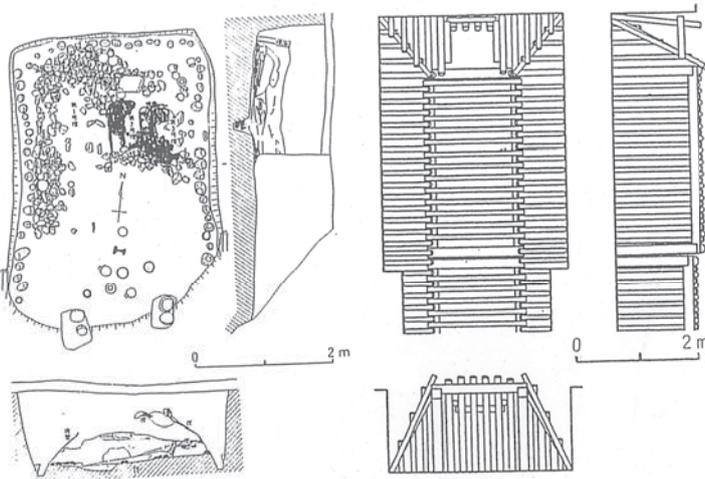
③丹芝里遺跡横穴墓の分布(報告書の一部改編)



①出現期の横穴 (福岡県行橋市竹並A-23号横穴)



②大阪府柏原市玉手山南群13号横穴

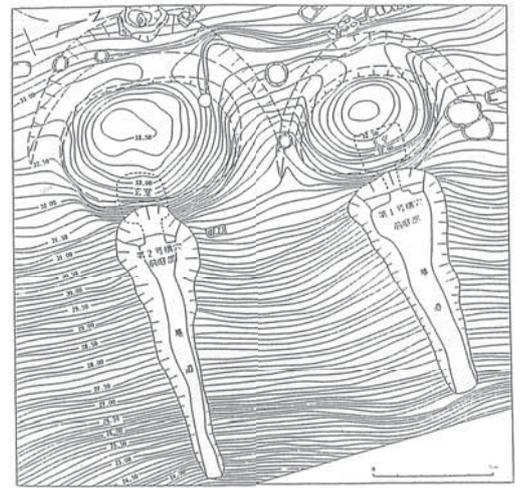


大阪府茨木市上寺山古墳の横穴式木槨 (左:実測図, 右:木組の復原図)

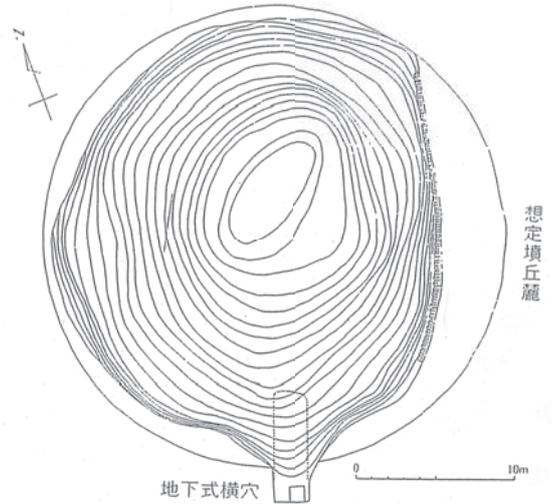


③大阪府茨木市上寺山古墳の横穴式木槨

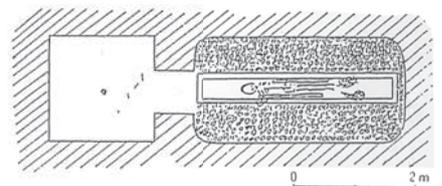
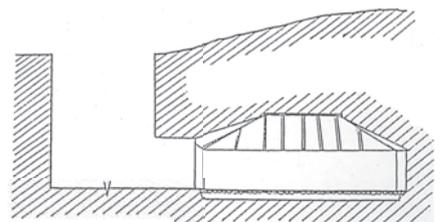
第2図 出現期の横穴墓と横穴式木槨 (白石1985より)



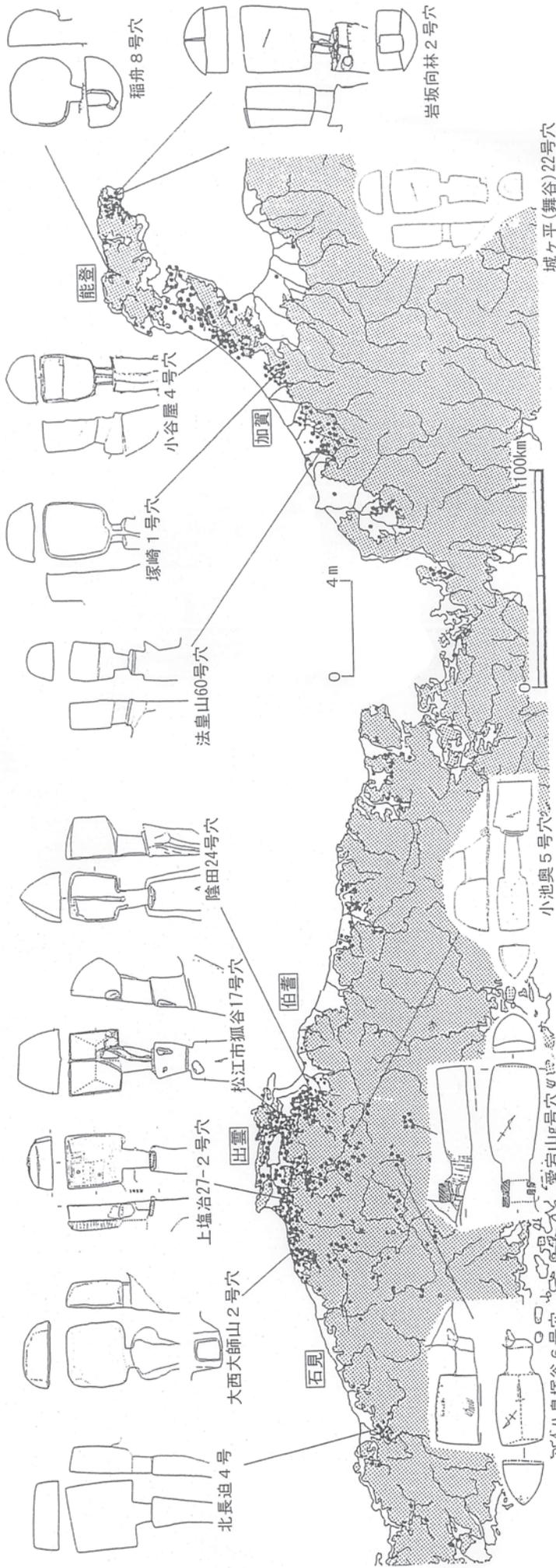
④墳丘をもつ横穴 (山口市朝田墳墓群IV地区1, 2号横穴)



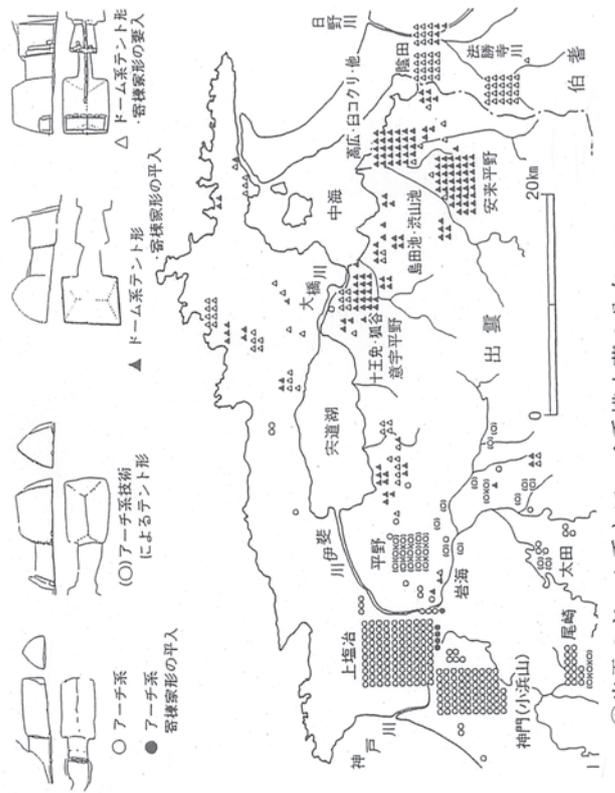
⑤墳丘をもつ地下式横穴 (宮崎県西都市西都原111号墳・同地下式横穴4号)



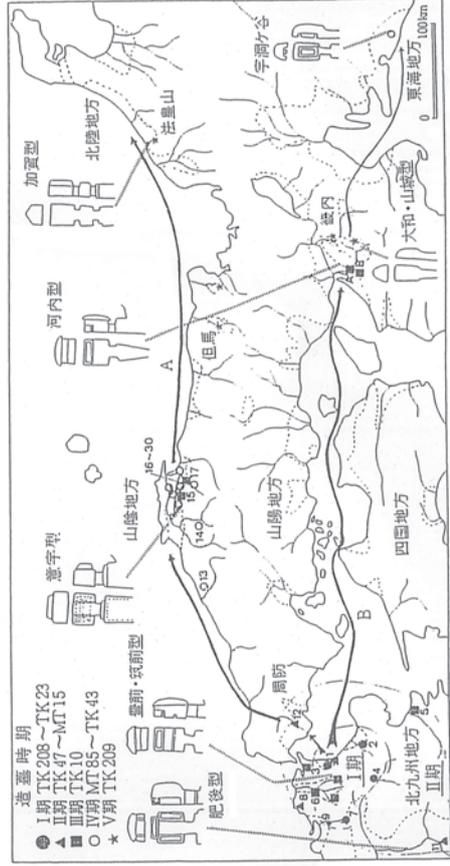
⑥宮崎県国富町六野原2号地下式横穴



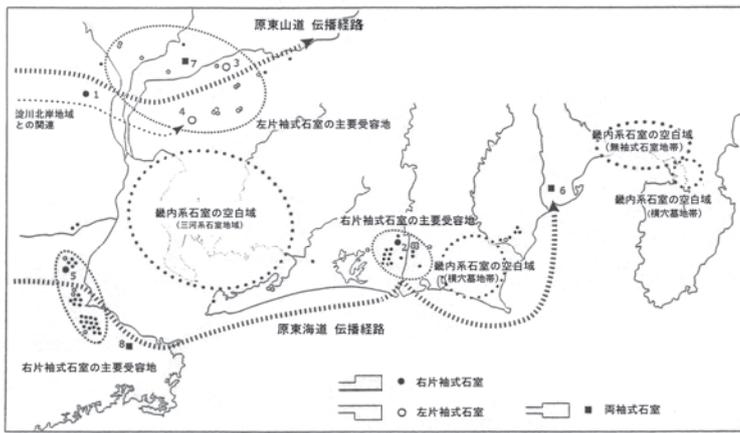
①日本海沿岸域の横穴墓の平面形



②出雲のドーム系とアーチ系横穴墓の分布 (大谷2017より)



③横穴墓の分布と伝播 (花田1990 a より)



①東海地方における横穴系埋葬施設の多様性

地域	横穴式石室			横穴式木室	横穴	木棺直葬	洞穴墓
	畿内系	非畿内系 北部九州系	在来系				
伊賀	◎						
北伊勢	○	◎	○	△	△	△	
中伊勢	◎		○	△		△	
南伊勢	○		◎	○		◎	
志摩	○	△	○				
飛騨	◎		○		△		
西美濃	◎		○				
中美濃(西)	◎	△	○				
中美濃(東)			◎		◎		
東美濃			○		△		
尾張	◎		○				
西三河		△	◎				
東三河			◎				
西遠江	◎		○	○			
中遠江	◎		○	○			
東遠江			△	△	◎		
西駿河	◎		○		△		
中駿河	◎		○				
東駿河			◎				
北伊豆			○		◎		△
南伊豆							○

凡例
 ◎: 最上位を含む階層に受容
 ○: 中・下位階層を中心に主体的に受容
 △: 中・下位階層を中心に客体的に受容

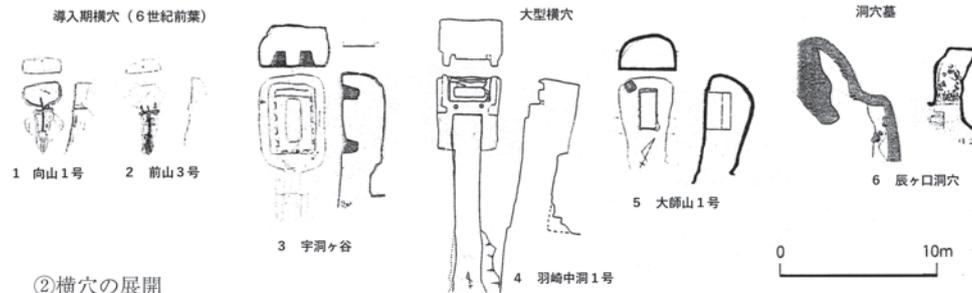


④各地域の埋葬施設

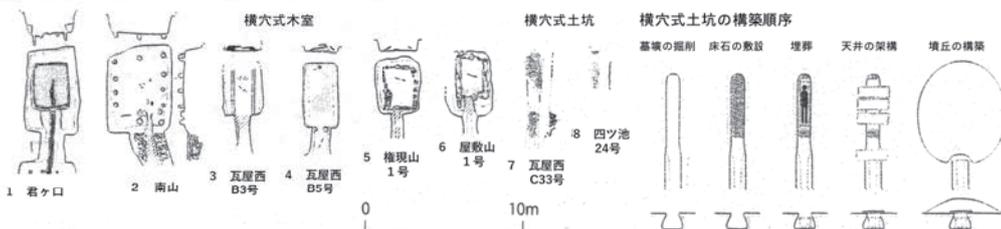
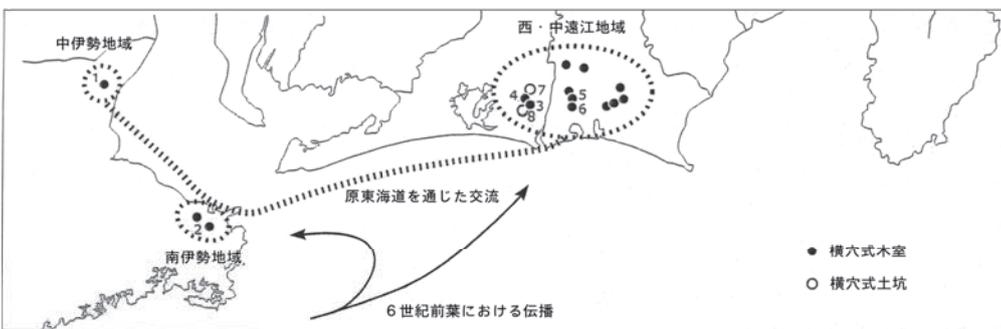


- ▲ 北部九州系石室
- 三河系石室
- その他の在来系石室

⑤三河系石室の影響範囲

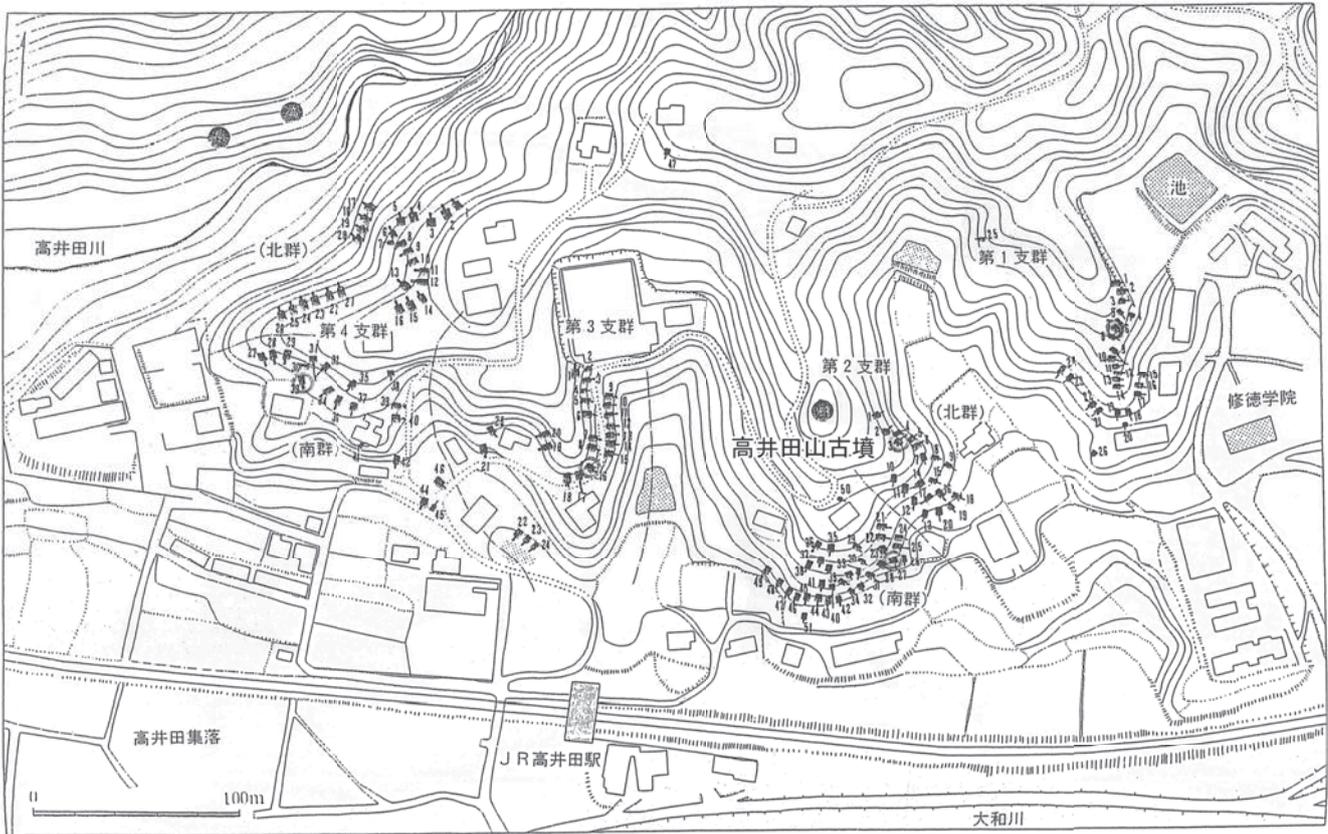


②横穴の展開

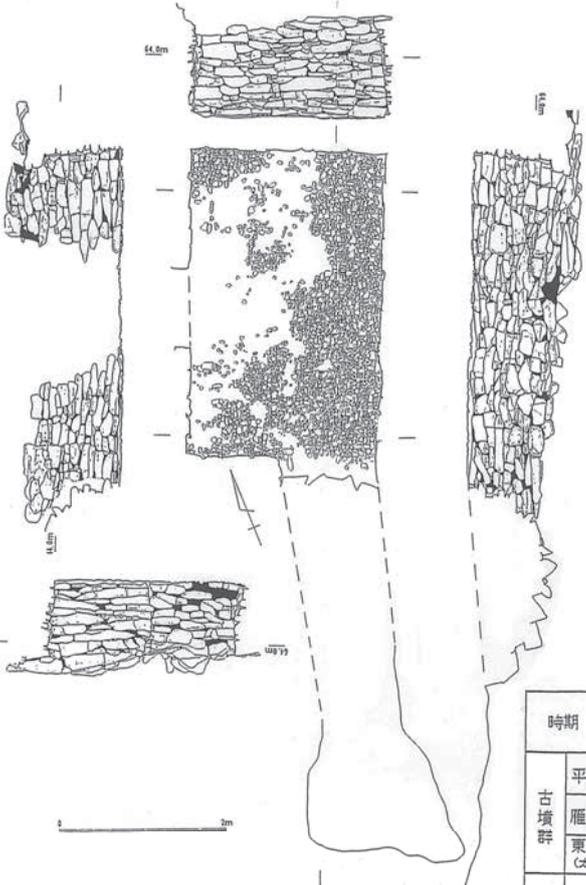


③横穴式木室の展開

第4図 東海地方における横穴系埋葬施設 (鈴木2017より)



●古墳 横穴墓 ○ ①高井田横穴群の分布図 (花田1990bより) (コンタ2m)



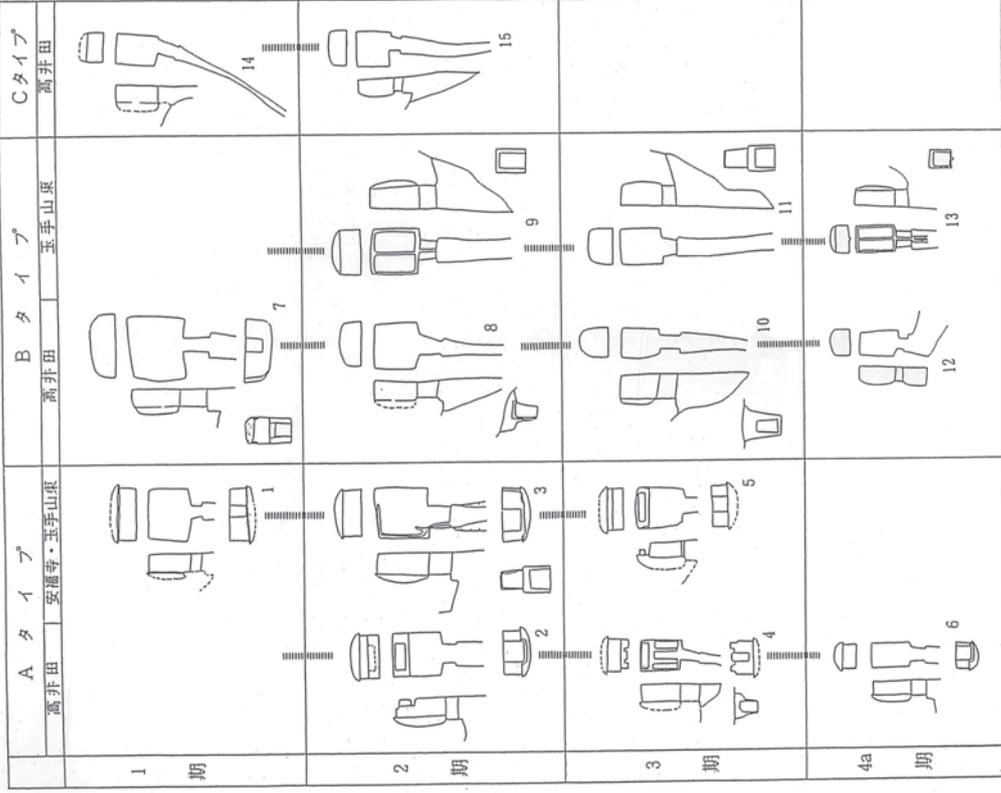
②高井田古墳の墳丘と石室 (柏原市教委1996より)



時期	西		500				600				700					
	土器	型式	TK 208	TK 23	TK 47	MT 15	TK 10	MT 85	TK 43	TK 209	飛鳥 I	飛鳥 II	飛鳥 III	飛鳥 IV	平城 I	平城 II
古墳群	平尾山支群						?			横穴式石室						
	雁多尾畑支群						?			横穴式石室				小石室	火葬墓	
	東山丘陵 (太平寺支群)									横穴式石室					土器棺	
横穴群	高井田															← 太平寺横穴群
	安福寺															
	玉手山東															
その他	埴輪樹立															
	鍛冶工房															
	河内六寺															
造墓区分			1 期				2 期				3 期		4 期			

③高井田古墳の変遷 (花田1990bより)

第5図 高井田古墳群の構造と変遷

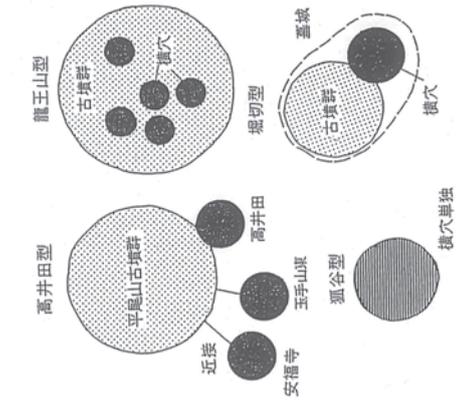


特徴	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	その他の特徴
1期	方形アラン	方形アラン	方形アラン	石門正面壁
2期	方形アラン	方形アラン	方形アラン	石扉(通志)
3期	方形アラン	方形アラン	方形アラン	石扉(通志)
4a期	方形アラン	方形アラン	方形アラン	石扉(通志)
4b期	方形アラン	方形アラン	方形アラン	石扉(通志)

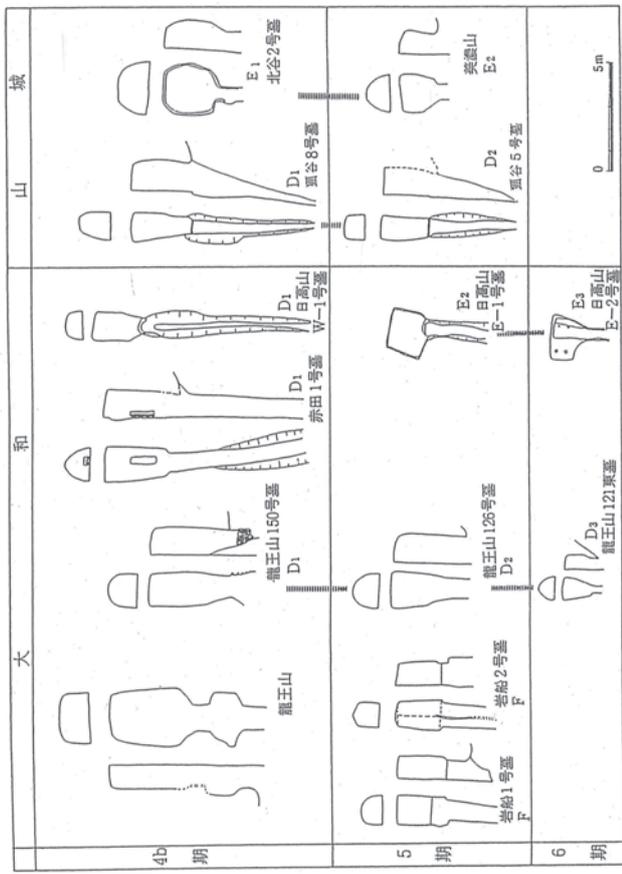
①河内横穴墓形態変遷図とその特徴 (花田1990 a より)

横穴群名	横穴数	6世紀		7世紀	
		TK10	MT85	TK43	TK44
河内	149	高井田横穴群	安福寺横穴群	玉手山東横穴群	太平寺横穴群
大和	300	龍王山横穴群	赤田横穴群	歌姫横穴群	山鹿狐塚横穴群
山城	15	宝来横穴群	日高山横穴群	岩船横穴群	美濃山横穴群
	2	北谷横穴群			
横穴群の遺墓数		遺墓1期		遺墓2期	

②畿内横穴群の消長 (花田1990 a に加筆)

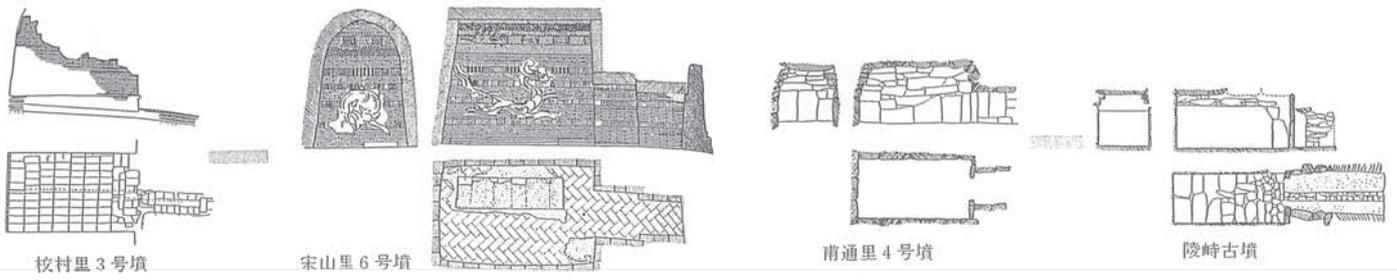


④横穴墓域の類型 (花田1990 a より)



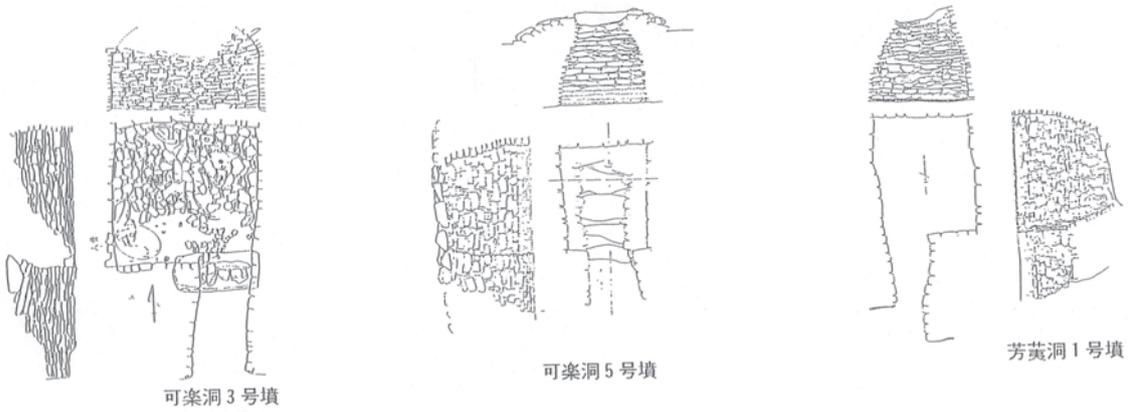
③大和・山城横穴墓形態変遷図

第6図 畿内の横穴墓

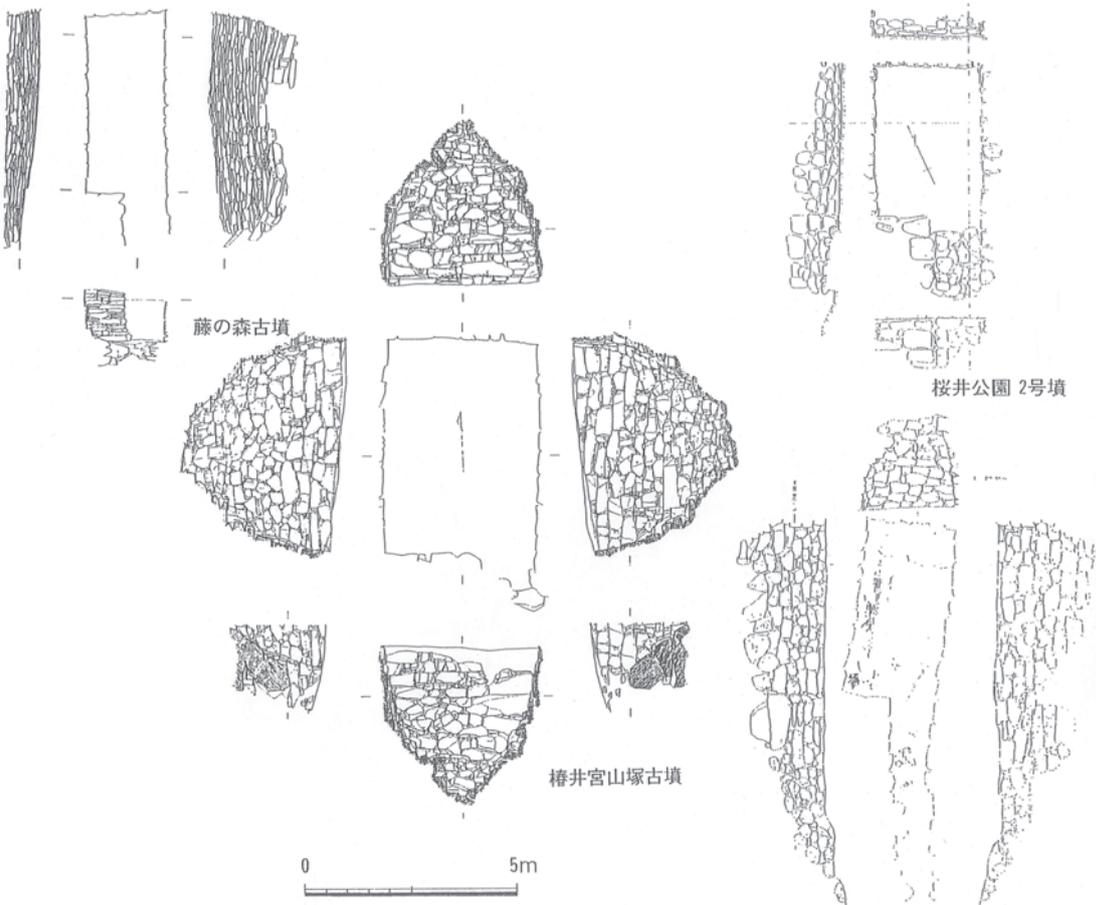


0 1m

第7図 百濟中期の横穴式石室墳の変遷 (東潮・田中俊明『韓国の古代遺跡』中央公論社1989より)

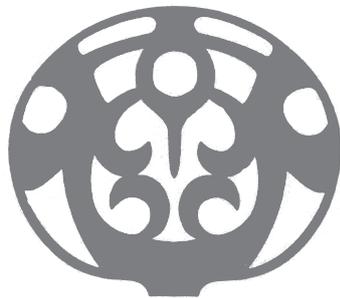


①百濟の横穴式石室



②畿内の初期横穴式石室

第8図 百濟と畿内(初期)の横穴式石室 (柏原市教委1996より)



**KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER**

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどの催し物は、下記のホームページでもご案内しています。

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40 番の 3

Tel (075) 933-3877 (代表) Fax (075) 922-1189